

改善計画書

平成 24 年度 主専攻プログラム改善計画書

1) 教育プログラム名：

教育学プログラム

2) 検討した基準とその自己評価結果

基準 6-1 (B)

基準 6-2 (B)

3) 改善計画案 (期待される効果を含む)

平成 23 年度は、22 年度に比して、

- ・ GPA に基づいた主専攻プログラムの点検・評価
- ・ 学生の自己評価に基づく教育効果の確認

について取り組みが進んだ。

他方、今年度特に重点的に改善すべき課題として注目したのは、授業評価アンケートに対する自己点検と改善策の検討、公開についての取り組みである。具体的計画としては、これまでも年 2 回開催してきた担当教員会 (9 月、及び、2 月) を引き続き開催し、直近の学期における授業アンケート結果に基づいた改善策の検討作業、教員による意見・改善策の説明を学生に行ったことの確認作業等を行い、問題点があれば協議する。上記の取り組みにおいて、以下の効果が期待できる。

基準 6-1、6-2 に示される「授業評価アンケートに対する自己点検と改善策の検討」を全学生について実施できる。

広島大学大学院教育学研究科
音楽文化教育学講座

第38回

定期演奏会

2012年12月2日(日)

14:30開演(14:00開場)

広島大学 サタケメモリアルホール

主催／広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学講座
共催／広島大学大学院教育学研究科

後援／広島県・東広島市教育委員会・中国新聞社・NHK広島放送局・広島テレビ
中国放送・テレビ新広島・広島ホームテレビ・広島エフエム放送

お祝いの言葉

広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学講座第38回定期演奏会開催にあたり、広島大学を代表して心よりお慶び申し上げます。

音楽を専攻された皆さんが、学内外の皆さんに日頃の学習成果を披露していただけることを大変喜んでしています。この演奏会は、ご来場の皆様に音楽を楽しんでいただけるよう、学生たちが主体となって心を込めて企画しています。また、メンバーは音楽文化教育学講座の学生や教員ばかりでなく、他学部生、公開講座に参加されている近隣の方々も演奏者として参加されており、皆さんが音楽を楽しんでいる様子が想像されます。

学生たちが音楽を通して感性を磨き、豊かな人間性を育み、人と人とのつながりを大切にすることを学び、大きく成長することを期待するとともに、本日の演奏会にご来場の皆様が楽しいひとときを過ごされますことを祈念して、お祝いの言葉といたします。

広島大学長 浅原 利正

ごあいさつ

本日はご多忙のところ、広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学講座第38回定期演奏会にお越しいただき誠にありがとうございます。

本講座の前身である教育学部音楽科は、昭和24年(1949)の広島大学設置とともに開設され、その後改組・統合等を経て現在に至っています。その後まもなくオーケストラの授業が開始され、定期演奏会を開催してまいりました。このような歴史ある伝統を守り、さらなる発展に力を尽くすことは、音楽科の教員、学生一同の重要な責務であると考えます。

さて、今回第38回定期演奏会では、他コースとの繋がりをもってチラシやポスターをデザインしています。また、前座の演奏を企画の一つとして取り入れたりするなど、制作の初期段階から例年よりもさらに、学生たち主体の計画・準備を進めてまいりました。

今回は、吹奏楽、管弦楽、そして合唱と多彩なプログラムでお聴きいただきたいと存じます。合唱は、他学部生や一般へ向けた公開講座の受講生も参加していただきます。また吹奏楽では、参加者の多くは他学部の学生さんによって占められていますが、こうして本講座の学生だけでなく、いろいろな方々が一緒に演奏して下さることは、非常に喜ばしいことであります。そして、開演前の前座につきましては、オーディションによって選ばれた学生3組の室内楽もお楽しみいただけるものと存じます。

まだまだ完璧な演奏とは言えないところもありますが、どうか最後までご鑑賞いただきまして、温かい拍手と忌憚のないご批判を賜りますよう、お願い申し上げます。また、この演奏会にご協力くださった非常勤の先生方、卒業生の皆様ほか関係各位に、この場をお借りしまして御礼申し上げます。

なお、最後になりましたが、本学学長浅原利正先生よりご祝辞を賜りましたことは、本講座の教員・学生一同にとりまして望外の喜びと存じます。ここに厚く御礼申し上げます。

広島大学大学院教育学研究科 音楽文化教育学講座 主任 瀨本 恵康

♪ 意見・感想 ♪

◇MC

- ・一般人には背景・意義が分かりやすくありがたかった。今後このような学外の人にも分かりやすい工夫をお願いします。
- ・良かった。
- ・演奏会がよく分かった。

◇前座

- ・前座が良かった。もっと聴きたい。お得感があった！続けてほしい。
- ・前座の曲名、出演者の名前、曲紹介がほしかった。プログラムに載せるか、別紙に載せてプログラムにはさんでほしい。
- ・フルートがきらきらしていた。
- ・ピアノ演奏が素晴らしい。
- ・グオリアティが高くて（前座で終わらせてしまふのが）もったいない。
- ・新しい試みは成功だった。
- ・ざわざわしていたので、アナウンスを入れると良い。連弾が見えにくかった。
- ・スポットライトを当てるなどして目立つようにしたら良いのでは？

◇プログラム

- ・素人にはどうかと思ったがスーッと体に音が入ってきて、分からないなりに音を感じた。
- ・プログラムの色が良い。
- ・曲目解説がとてもありが良かった。曲の背景を知るとより楽しめる。
- ・アラカルトがなくなっただけ残念。復活してほしい。
- ・大学の演奏会なので、あまり高尚なものを狙わず、少しアットホームな雰囲気があっても良いのでは？
- ・学生の声などを演奏会で聞けたら良い。
- ・ポピュラーな曲をいれてほしい。
- ・アンコール1曲あっても良いのでは？
- ・選曲の時に、アンケート等にリクエストの多い曲を入れると客の反応も良いのでは？楽しく、華やかなコンサートが聴きたい！センスを磨いて！
- ・若さあふれるような曲があっても良い。聴く側ももっと楽しめるとありがたい。
- ・ピアノ演奏がほしい。
- ・各曲目の紹介や演奏者たちが特に表現しようとしていた（した）ことを説明してもらえるともっと楽しめる。

◇会場

- ・寒かった。ヒーターをつけてほしい。
- ・マナーの悪い子供が何人もいた。中にスタッフを置いて注意できないか？
- ・携帯の電源を切るのを再度注意した方が良い。

◇カメラ・ビデオ撮影

- ・写真を撮っている人を注意してほしい。
- ・学生の定演なので、家族も来ており、コンクールではないので、ビデオ・カメラOKで良いのでは？
- ・撮影所を設置してほしい。またはカメラマンが撮ったものを販売してほしい。

◇リクエスト

- ・第九
- ・カルミナ・プラーナ
- ・コンチェルト
- ・ディズニーマードレー
- ・ジブリメドレー
- ・名曲メドレー

◇その他

- ・素晴らしい演奏だった。来てよかった。ありがとう。
- ・音楽の中に身を投入できた。来年も楽しめ。
- ・6月の演奏会を楽しみにしています。
- ・音楽に触れるチャンスを作ってもらってありがたい。
- ・迫力満点で素晴らしい。
- ・（高校生女子）勉強しすぎて死んでしまったが、生き返った！明日のテスト頑張れそうです。（可憐いイラスト付きで）音楽すてき。広大サイコー！これからも頑張ってください！
- ・オーケストラをやってみたくなかった。

♪ 管弦楽 ♪

◇高評価

- ・難しい曲だがうまくとめられている。
- ・トランペット1、オーボエ、ホルン、ヴァイオリンが良かった。
- ・音が綺麗だった。ハーモニーが良かった。
- ・難しい曲をよく練習して演奏している。学生たちの努力に拍手！
- ・去年が信じられない出来だったのデキドキだったが、今年は反省されていた。無難にまとめられていて安心した。
- ・弦楽器の素晴らしさと金管楽器、打楽器等が融合してとても素晴らしかった。弦楽器の響きの素晴らしさに魅了された。
- ・年々レベルが上がっているような…。
- ・3楽章のテーマで弦と管がびったり合っていた。
- ・各種ソロがきれい。
- ・曲も良く指揮者が素晴らしい。指揮者がカッコイイ。
- ・とても重厚な演奏だった。専科ではない人が多い中、弦の重厚感はなかなかだった。皆はそれよりさらに迫力があつた。
- ・自分の楽器に自信をもって取り組んでいた。

◇低評価

- ・管と弦が合っていない。
 - ・ヴァイオリンはイメージ薄い。トランペット、ホルン頑張つて。
 - ・全体的にレベルが下がった。集中力が欠けていたような気が。
 - ・曲が長い。眠かった。
 - ・弦楽器のレベルがもう少し上がると良い。
- ねぎらいの言葉も多かったです。
- ・管の音がアラス仕様？ 聞き手の身になって下さい。
 - ・もっと練習して完成度を高めてほしい。期待していたのがつかり。
 - ・指揮者を見れていない。バラついていて残念。
 - ・おとなしいオーケストラだと思った。
 - ・若干ドラマチックとした返屈な演奏に感じた。もっとリラックスして楽しく演奏しても良いのでは？
 - ・難解な曲なので取り残された方が多いのでは？

◇その他

- ・2、3年に1度はがビュラーな名曲に取り組んでも良いのでは？
- ・千葉先生お疲れ様でした！
- ・馴染みのある曲が良い。

など多数。

♪ 合唱 ♪

◇高評価

- ・特に良かった。素晴らしすぎる。感動。ゾラボー。さすが教音！
- ・ライオンバニーが最初から最後まで良かった。
- ・物静かな演奏に迫力のあるコーラス。一体感があつて良かった。
- ・癒し、希望、勇気などをありがとう。
- ・合唱とオケのパラソンスが絶妙。
- ・男声がとても良かった。
- ・松永先生への賛美の思いが伝わった。
- ・学生だけでなく、ほかの方々の協力もあつて、演奏する人、歌う人が一体となつて素晴らしかった。
- ・この演奏で音楽の素晴らしさを改めて感じた。
- ・親しみの持てる曲だった。
- ・言葉の意味よりも何か大きなパワーを感じた。吸い込まれそうになった。
- ・素敵な歌声に癒された。心が洗われた。
- ・人の歌声のパワーを改めて実感。
- ・松永先生への思いが一つになつて教会の響きのように感動した。
- ・感激して涙がにじみ出た。
- ・100名の合唱はさすがに重厚な迫力があり、美しいハーモニーと相まって良かった。
- ・フロア！
- ・神聖の声。
- ・難しい曲をよく歌っている。

◇低評価

- ・選曲がいまひとつ。
- ・配列がぼこぼこしていたのでもう少し考えてみては？
- ・オケの演奏がいまひとつ。
- ・ヴァイオリンの音程が…。

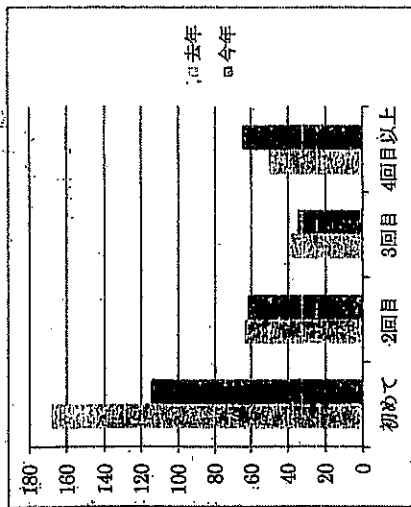
◇その他

- ・合唱をたっぷり聴きたい。
- ・去年の「土の歌」がまた聴きたい！
- ・歌詞の歌を書いてほしいかった。
- ・もう1曲くらいあっても。

など多数。

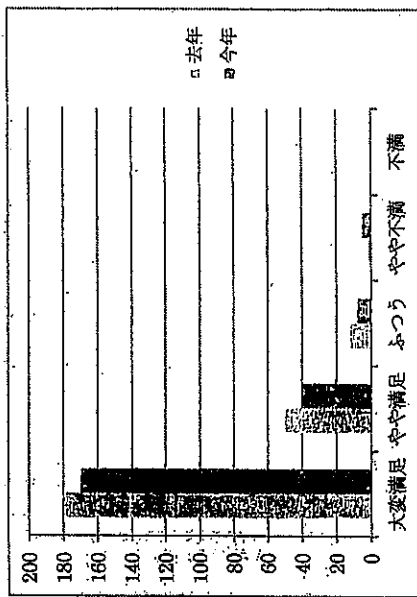
◇定期演奏会に来た回数

- 初めて...115人
- 2回目...62人
- 3回目...35人
- 4回目以上...65人
- 不明...2人



◇定期演奏会の満足度

- 大変満足...170人
- やや満足...40人
- ふつう...8人
- やや不満...5人
- 不満...0人



ト、吹奏楽

◇高評価

- ・クリアな音で聴きやすかった。
- ・練習の成果がとも感じられた。
- ・例年以上に熱演で、しかも大変聴き応えがあった。見事!
- ・中井先生の指揮はいつも強弱がとも聴き応えがあって楽しみ。笑顔も素敵。
- ・ホルン、ハーブ、オーボエ、パーカッション、スプーンの2人、フルートの女性の音が良かった。
- ・感激した。去年よりパワフルでより楽しい楽曲が多かったので大変良かった。
- ・一体感ある演奏で迫力を感じた。
- ・楽器それぞれが活かされていて良かった。
- ・初めて聴いた音楽だったが、久しぶりに鳥肌が立ち、楽しく響く演奏だった。
- ・吹奏楽らしく、軽快で、「ダイナミックな楽しい演奏だった。
- ・「モニュメント」「アルメニアン・ダンス」が良かった。
- ・少ない人数から徐々に増える演出が良かった。パフォーマン스가良かった。
- ・日本人にもなじみやすい音が曲の性質をよく表していた。
- ・中高生の生徒にもDVDで聴かせたい。
- ・洗練されていた。秀逸。

◇低評価

- ・初めて聴いた曲で良く分からな。
- ・大編成の吹奏楽なのにバスクラ1本は寂しい。できればコントラ系の木管楽器(コントラバスクラ・コントラリアアゴット)があるといい。「ロリの歌」の最後、ホルンのバカアツプの構え(高さ)が描いていなかったのが残念。
- ・頭響っているのに聴いていてつまらない。コントラバスが6本もあるのならついでにオケにしたら？
- ・ブラスの良さを感じられない。
- ・ピッチが揃うといい。
- ・もっと良い曲はないんですか？
- ・1曲目の終わりごろ、舞台の裏の音が聞こえて残念だった。
- ・曲と曲の間の静かなところで、ガサガサしてて残念。
- ・やや低音が悪い。
- ・高音で音が割れ、統制が崩れている。
- ・出だしの音がはじめか弱そうだったのもともと良かったのに...練習

◇その他

- ・プログラムの曲目解説も楽しめた。
- ・ジャズっぽい曲も取り上げてほしい。
- ・パーカッションのある曲をもっと入れてほしい。

など多数。

第38回 定期演奏会アンケート 集計結果

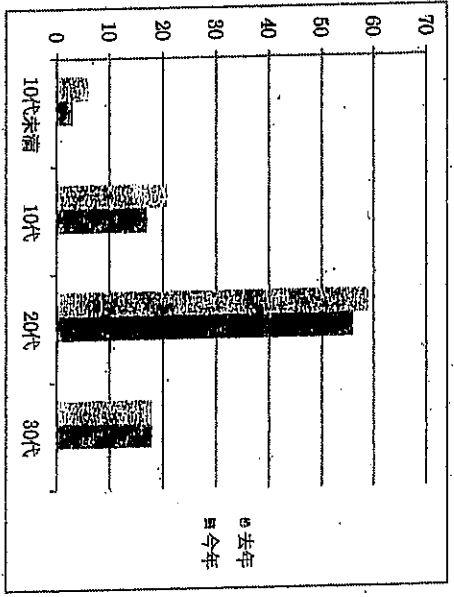
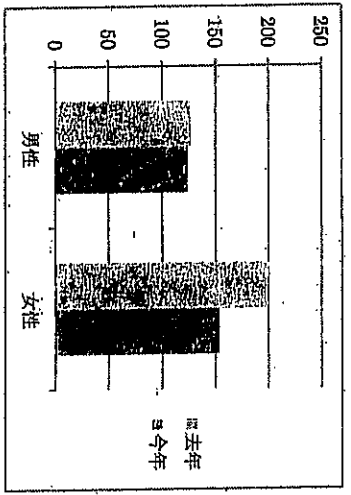
今年のご来場者数は、約485人でした！！

◇プログラムの余り
今年…556部
去年…約420部

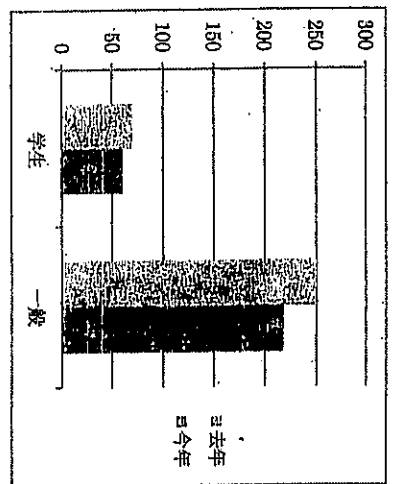
◇アンケート総数
今年…279人
去年…327人

◇性別
男性…124人
女性…154人
不明…1人

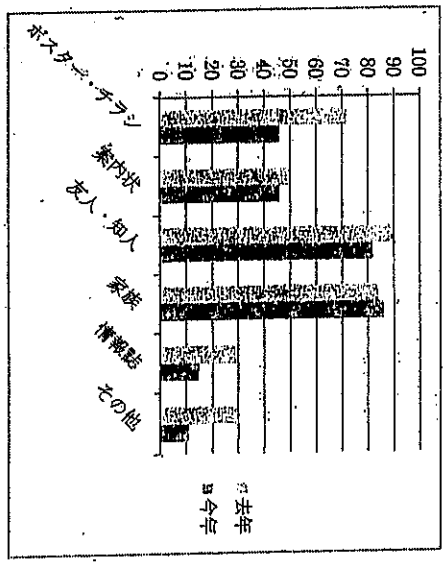
◇年齢
10代未満…3人
10代…17人
20代…56人
30代…18人
40代…43人
50代…75人
60代…38人
70代以上…25人
不明…4人



◇職業
学生…61人
一般…218人



◇演奏会をどのようにして知ったか
ポスター・チラシを見て…46人
案内状を受けて…46人
友人・知人を通して…82人
家族が出演している…86人
情報誌を見て…15人
その他…11人
不明…4人



ポスター・チラシ内訳
小学校…2人
ヤマハ…2人
サタケ…3人
スーパ…2人
広大講内…5人
図書館…4人
広島文化情報センター…1人
飲食店…1人

その他内訳
家族から…3人
通りかかって…1人
OG…1人
ネット…3人
ラジオ…3人

- ・(小学生女子) 音楽の仕事がしたいと思いました。
- ・(小学生女子) 今日の音楽を聴いて、私も将来立派なヴァイオリニストになるぞと思いました。
- ・専門外の楽器の方もいるのに安定した演奏だった。
- ・一緒に演奏したくなった。長さがちょうどよい。
- ・市民が気楽に楽しめるこのような企画を続けてほしい。
- ・企画が良い。
- ・寒かったが、早くにお客様をホールに入れていて気が利いていた。
- ・曲ごとの負担を考えると、1stを担当する人は、曲ごとにきちんと分けるべき。特に Hr.1 は大変なので。アシをつけるなりした方がよい。
- ・聴き終わって幸せになれるような音楽を聴きたい。身内は来るけど、リピーターはいるのか？
- ・真面目な方が多いのかな？少し面白みがない。力が入りすぎ。
- ・(OGの方) 当時からのことを思うと、プログラムがはるかに難しい。せっかくの成果をもっと広島に出て行って聴いていただくとか、学内で関係者のみに聞いていただくのはもったいない。誰に聞いてほしいのか？をもっと問うてほしい。
- ・先生の服がヒラリとなるのがかっこよかった。

平成25年8月5日

運営支援グループ総括主査 西岡照夫 殿

教育学講座主任 大塚 豊

8月5日付けで照会のありました外部関係者による主専攻プログラムの評価と改善に関して、以下のとおり、関係資料を添えてご報告申し上げます。

1. 評価方法

基準12:外部関係者によるプログラムの評価と改善では、外部関係者の定義として、「プログラム修了学生が就職する可能性がある企業関係者、卒業生自身等が考えられる」と記されていることから、本教育学講座では卒業生を対象として、平成24年3月に卒業を迎えた者に対して、添付資料に示した内容の質問紙による調査を実施した。

2. 評価結果

調査には卒業生全員の28名が回答した。その結果を見ると、いずれの項目についても、教育学プログラムで実施した授業や教育全般に対して概ねきわめて高い評価をしていることが見て取れる。但し、「教育学プログラムで受けた授業全般について」尋ねた項目のうち、「就職に役立つ授業」という点で5段階評価の2と回答した者が大学院進学者に2名、一般企業就職者3名が含まれていた。また、「これからの仕事や生活に役立つ授業」という点で5段階評価の2と回答した者が大学院進学者に1名だけ含まれていた。大学院進学者にとっては本プログラムで受けた授業が就職や仕事に役立つか否かは未だ判断し難い状況と思われる。一般企業就職者中3名の消極的回答は、数字のみ見ると重く受けとめなければならないかもしれないが、そもそも一般企業への就職を将来の主要な進路として想定していない本プログラムの内容では仕方のない結果あるいはプログラムの目標に徹した教育が行われた結果とも言える。この他の消極的な回答としては、公務員就職者のうちの1名だけが「国際的視野を持つようになった」という点で5段階評価の2と回答していた。

3. 評価結果の活用

本質問紙調査の結果は、講座会議において講座所属教員全員に対して公表し、内容に関する討議を行うことで、講座内での共通理解を図った。上記のとおり、ごく少数とはいえ、やや消極的な評価となった点については、今後の授業において改善の方策を講じる資料としたいと考えている。

4. 添付資料

卒業生質問紙調査票および学生からの回答

教育学プログラム改善のための卒業生へのアンケート

卒業生のみなさんへ

ご卒業、おめでとうございます。このアンケートは、皆さんから教育学プログラム（教育講座の授業全般）に関してご意見をいただき、今後の改善・充実のための貴重な資料とさせていただくことを目的としています。是非とも忌憚のないご意見をお聞かせください。

教育学プログラム委員会

Q1 性別 該当番号に○印をつけてください。

1 男性 ・ 2 女性

Q2 進路 該当番号に○印をつけてください。

1 大学院 2 教職 3 公務員 4 企業 5 その他 ()

Q3 教育学講座での授業や学生生活について、次のようなことに対してどのように思いますか。
該当番号に○印をつけてください。

5 非常にそう思う 4 思う 3 どちらともいえない 2 あまり思わない 1 まったく思わない

- | | |
|--------------------|--|
| ① 社会的視野を広げることができた | 5 — <input checked="" type="radio"/> — 4 — 3 — 2 — 1 |
| ② 将来の目標を見つけることができた | 5 — <input checked="" type="radio"/> — 4 — 3 — 2 — 1 |
| ③ 人間的に成長できた | 5 — <input checked="" type="radio"/> — 4 — 3 — 2 — 1 |
| ④ よい友人が得られた | 5 — <input checked="" type="radio"/> — 4 — 3 — 2 — 1 |
| ⑤ 柔軟な考え方ができるようになった | 5 — <input checked="" type="radio"/> — 4 — 3 — 2 — 1 |
| ⑥ 深い考え方ができるようになった | 5 — <input checked="" type="radio"/> — 4 — 3 — 2 — 1 |
| ⑦ 国際的な視野を持つようになった | 5 — <input checked="" type="radio"/> — 4 — 3 — 2 — 1 |

Q4 教育学プログラムで受けた授業全般について、次のことに対してどのように思いますか。
該当番号に○印をつけてください。

5 とても多かった 4 多かった 3 どちらともいえない 2 少なかった 1 とても少なかった

- | | |
|---------------------|--|
| ① 専門的に深みのある授業 | 5 — <input checked="" type="radio"/> — 4 — 3 — 2 — 1 |
| ② 幅広い学際を感じることができる授業 | 5 — 4 — <input checked="" type="radio"/> — 3 — 2 — 1 |
| ③ 新たな興味・関心が喚起される授業 | 5 — <input checked="" type="radio"/> — 4 — 3 — 2 — 1 |
| ④ 学習意欲が喚起される授業 | 5 — <input checked="" type="radio"/> — 4 — 3 — 2 — 1 |
| ⑤ 就職に役立つ授業 | 5 — 4 — <input checked="" type="radio"/> — 3 — 2 — 1 |
| ⑥ これからの仕事や生活に役立つ授業 | 5 — 4 — <input checked="" type="radio"/> — 3 — 2 — 1 |
| ⑦ 先生の熱意が感じられる授業 | 5 — <input checked="" type="radio"/> — 4 — 3 — 2 — 1 |
| ⑧ 内容がよくわかる授業 | 5 — 4 — <input checked="" type="radio"/> — 3 — 2 — 1 |

Q5 最後に、教育学プログラム（教育学講座の授業全般）の改善に向けてのアドバイスや要望など、忌憚のないご意見をお聞かせください。

今までありがとうございました。

楽しい4年間でした。

教教の先生方は、熱意と優しさを持った方ばかり
でした。教教に入学してよかったです。

ご協力、ありがとうございました。

広島大学

【NO 6 5 広島大学 ○】

	広島大学 教員養成分野
学部等の教育研究 組織の名称	教育学部（495名） 教育学研究科（M：157名、D：49名）
沿革	<p>明治7年（1874年） 白島学校を設置</p> <p>昭和18年（1943年） 広島師範学校を設置</p> <p>昭和24年（1949年） 広島大学教育学部を設置</p> <p>昭和2841年（195366年） 大学院教育学研究科（修士課程、博士課程）を設置</p> <p>昭和53年（1978年） 学校教育学部を設置</p> <p>昭和55年（1980年） 学校教育研究科（修士課程）を設置</p> <p>平成12年（2000年） 学校教育学部と教育学部を統合し、教育学部に改組。大学院教育学研究科（博士課程）と学校教育研究科（修士課程）を改組・統合し、大学院教育学研究科を設置。</p>
設置目的等	<p>広島大学教育学部・教育学研究科の母体の一つである広島師範学校は、明治7年に開設された白島学校を嚆矢とし、初等・中等学校教員の養成（師範教育）を目的とした中等・高等教育機関を目的として明治7昭和18年に設置された。新制国立大学の発足時には、旧制諸学校である広島師範学校、広島青年師範学校、広島高等師範学校等を総括して、広島大学教育学部として承継された。発足当時の教育学部では、東千田町の教育学部本部が教育学・心理学の教育を、教育学部本部と福山分校（平成元年に統合）が高等学校教員養成を、東雲分校と三原分校（昭和37年に東雲分校に統合）が義務教育諸学校の教員養成を担った。</p> <p>その後、ベビーズームによる児童生徒の急増を背景に、学科・定員が拡充された。また、教員採用者数の減少による教員就職率の低下に伴い、平成●年から平成●年にかけて、教員養成課程の一部を、教員以外の職業分野の大材や高い教養と柔軟な思考力を身につけた大材を養成することを目</p>

	<p>的として新課程の改組が行われ、教員養成課程の入学定員を縮小した。</p> <p>昭和53年に東雲分校が独立学部となり学校教育学部が設置され、さらに昭和55年には、大学院学校教育研究科が設置された。平成12年には、小学校から高等学校までの教員のみならず、生涯学習社会の幅広い職業分野で活躍できる人材の育成を目的として、学校教育学部と教育学部が統合され、教育学部となった。また、同年、21世紀の教育の担い手である実践的な指導力を持つ質の高い教員をはじめとする幅広い教育関係分野で活躍できる高度専門職業人の養成、教育学研究分野において高度な学識を有する研究者の養成を目的として、大学院教育学研究科（博士課程）と学校教育研究科（修士課程）が改組・統合され、大学院教育学研究科となった。</p>
<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>○ 広島大学の教員養成分野は、教育委員会等との連携等により、義務教育諸学校に関する教員養成機能における広域（ブロック）の拠点的作用を目指すことを基本的な目標とし、実践型教員養成機能への質的転換を図り、我が国の学校教員の質の向上に貢献する。このため、学部運営においては特に以下の二点について取り組む。</p> <p>i 実践的指導力の育成・強化を図るため、現在約27%の学校現場で指導経験のある大学教員を、第2期中期目標期間における改革を行いつつ、第3期中期目標期間末には約40%を確保する。また、附属学校等との連携により、大学教員が学校現場と密接に協働していけるシステムを構築する。</p> <p>ii 学部に教育委員会の幹部職員や公立の連携協力校の長等が構成員となる常設の諮問会議を設置し、学部や大学院のカリキュラムの検証、養成する人材像、現職教員の再教育の在り方などについて定期的に実質的な意見交換を行い、教育への社会の要請を受けとめ、その質の向上を図る。</p> <p>○ 学士課程教育では、附属学校や公立の連携協力校等を積極的に活用するなど、実践的な能力を育成しつつ、教科及び教職に関する各授業科目を有機的に結びつけた体系的な教育課程によって義務教育諸学校の教員を養成することにより、地域の教員養成機能の拠点的作用を担う。</p> <p>なお、卒業者に占める教員就職率（臨時的任用を含む）について、現状は83%であるが、将来の教員採用需要見通しを踏まえ、第2期中期</p>

目標期間における改革を行いつつ、第3期中期目標期間中は約90%を確保する。

- 広島県教育委員会等との連携・協働により、第3期中期目標期間中に教職大学院を設置することによって、学部段階での資質能力を有した者の中から、さらにより実践的な指導力・展開力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る新人教員の養成を行う。また、現職教員を対象に、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員等として不可欠な確かな指導的理論と優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダーを養成する。このため、実務家教員と研究者教員のティーム・ティーチングによる授業を拡充するなど、理論と実践を架橋した教育の拡充を図る。

なお、大学院博士前期課程の修了者（現職教員を除く）の教員就職率は、現状は~~51~~63%（博士後期課程への進学者を除く）であるが、第2期中期目標期間における改革を行いつつ、第3期中期目標期間中に教職大学院を設置し、その修了者の教員就職率は約95%を確保する。

- 博士前期課程では、我が国の学校教育において必要とする教科指導力の在り方と初等・中等教育のグローバル化への対応の必要性を踏まえ、従来の教科教育に関する領域を再構築し、実践的課題解決に資する研究指導體制を構築することにより、高度専門職業人としての教員の養成を行うと共に、教員養成研究・教員研修研究・教員養成に係る大学教員の養成研究をはじめ教育的諸課題の解決に直結する研究力向上を目的として、博士後期課程と併せて、教育学、心理学、教科教育学における研究者の養成を行う。また、社会教育、生涯教育に関わる様々な教育関連領域で、臨床心理士をはじめとする専門家の養成ならびに当該領域の研究を推進する。

なお、修了者（現職教員を除く）の教員就職率は、現状は~~51~~63%（博士後期課程への進学者を除く）であるが、第2期中期目標期間における改革を行いつつ、第3期中期目標期間中は約70%を確保する。

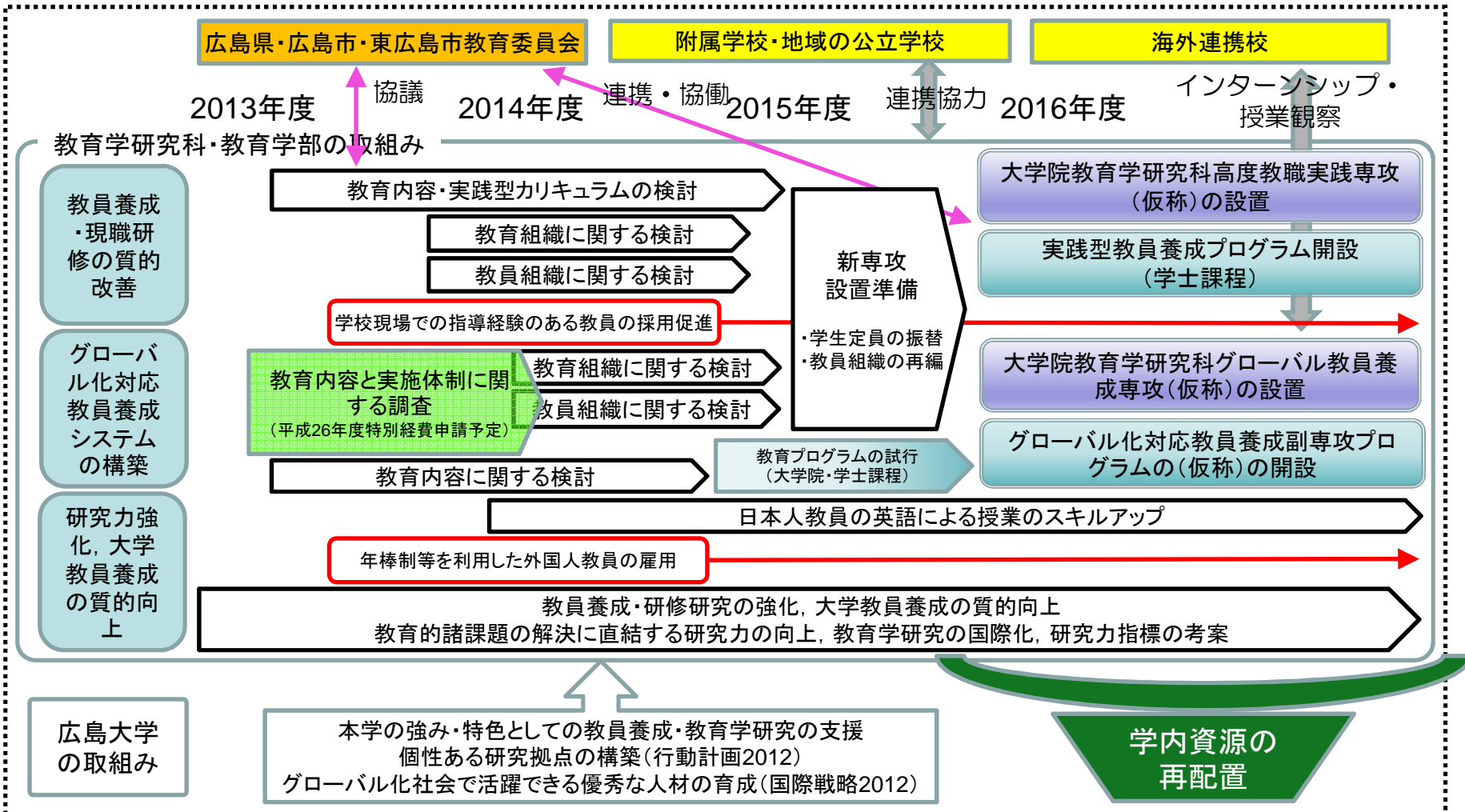
- 附属学校等と協働して学校における実践的課題解決に資する研究活動を行うとともに、免許状更新講習の実施、教育委員会等が行う現職教員研修のプログラム開発、校外研修への組織的な参画により、我が国の教

員の資質能力向上に寄与するなど、教員の研究活動等を通じて積極的な社会貢献活動を行う。

大学名： 広島大学

ミッションの再定義の対象となる組織： 教育学部、教育学研究科（教職大学院 有 ・ 無）

教職大学院（専門職学位課程）を設置するなどにより、教員養成・現職研修の質的改善を目指す。さらに、初等・中等教育のグローバル化に対応できる人材を育成するための教員養成システムを構築する。教員養成・現職研修の改善や教育的諸課題の解決に直結する研究力の向上、大学教員養成の質的向上を図る。これらを実現するために、学内資源の再配置等により、最も適切な教員組織を設置する。



入試の状況

(広島大学)

学士課程		平成15年度(10年前)						平成20年度(5年前)						平成23年度						平成24年度						平成25年度						
学部	分野	学科・課程	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率
教育学部	社会	第一類(学校教育系)	180	452	190	188	2.5倍	1.1%	180	531	187	185	3.0倍	1.1%	180	575	191	186	3.2倍	2.6%	180	448	191	190	2.5倍	0.5%	180	546	193	189	3.0倍	2.1%
		第二類(科学文化教育系)	88	232	102	99	2.6倍	2.9%	88	277	104	98	3.1倍	5.8%	88	326	98	97	3.7倍	1.0%	88	297	100	97	3.4倍	3.0%	88	258	101	96	2.9倍	5.0%
		第三類(言語文化教育系)	84	266	93	92	3.2倍	1.1%	84	237	90	90	2.8倍	0.0%	84	169	89	88	2.0倍	1.1%	84	197	91	88	2.3倍	3.3%	84	151	89	89	1.8倍	0.0%
		第四類(生涯活動教育系)	88	298	103	100	3.4倍	2.9%	88	292	103	96	3.3倍	6.8%	88	327	97	94	3.7倍	3.1%	88	281	100	96	3.2倍	4.0%	88	294	95	95	3.3倍	0.0%
		第五類(人間形成基礎系)	55	198	64	58	3.6倍	9.4%	55	179	61	61	3.3倍	0.0%	55	224	61	60	4.1倍	1.6%	55	168	59	58	3.1倍	1.7%	55	265	60	58	4.8倍	3.3%
合計			495	1,446	552	537	2.9倍	2.7%	495	1,516	545	530	3.1倍	2.8%	495	1,621	536	525	3.3倍	2.1%	495	1,391	541	529	2.8倍	2.2%	495	1,514	538	527	3.1倍	2.0%

博士課程前期		平成21年度						平成22年度						平成23年度						平成24年度						平成25年度						
研究科	分野	専攻	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率
教育学研究科	社会	学習科学専攻	19	40	22	22	2.1倍	0.0%	19	40	30	28	2.1倍	6.7%	19	42	26	23	2.2倍	11.5%	19	28	23	20	1.5倍	13.0%	19	38	26	26	2.0倍	0.0%
		特別支援教育学専攻	5	14	5	5	2.8倍	0.0%	5	6	2	2	1.2倍	0.0%	5	7	6	6	1.4倍	0.0%	5	5	5	4	1.0倍	20.0%	5	6	5	4	1.2倍	20.0%
		科学文化教育学専攻	35	71	48	43	2.0倍	10.4%	35	73	47	41	2.1倍	12.8%	35	78	47	41	2.2倍	12.8%	35	55	41	39	1.6倍	4.9%	35	51	41	38	1.5倍	7.3%
		言語文化教育学専攻	34	83	42	39	2.4倍	7.1%	34	68	40	38	2.0倍	5.0%	34	60	39	38	1.8倍	2.6%	34	71	37	35	2.1倍	5.4%	34	56	35	33	1.6倍	5.7%
		生涯活動教育学専攻	25	44	32	30	1.8倍	6.3%	25	44	36	34	1.8倍	5.6%	25	43	32	31	1.7倍	3.1%	25	40	32	29	1.6倍	9.4%	25	32	27	26	1.3倍	3.7%
		教育学専攻	15	27	20	19	1.8倍	5.0%	15	24	15	15	1.6倍	0.0%	15	27	20	17	1.8倍	15.0%	15	35	22	21	2.3倍	4.5%	15	24	17	16	1.6倍	5.9%
		心理学専攻	19	66	27	22	3.5倍	18.5%	19	62	25	20	3.3倍	20.0%	19	51	26	24	2.7倍	7.7%	19	53	24	21	2.8倍	12.5%	19	68	25	24	3.6倍	4.0%
高等教育開発専攻	5	6	6	5	1.2倍	16.7%	5	5	5	5	1.0倍	0.0%	5	2	2	2	0.4倍	0.0%	5	5	5	5	1.0倍	0.0%	5	3	3	3	0.6倍	0.0%		
合計			157	351	202	185	2.2倍	8.4%	157	322	200	183	2.1倍	8.5%	157	310	198	182	2.0倍	8.1%	157	292	189	174	1.9倍	7.9%	157	278	179	170	1.8倍	5.0%

博士課程後期		平成21年度						平成22年度						平成23年度						平成24年度						平成25年度						
研究科	分野	専攻	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率
教育学研究科	社会	学習開発専攻	9	14	13	13	1.6倍	0.0%	9	12	10	9	1.3倍	10.0%	9	6	6	6	0.7倍	0.0%	9	11	10	10	1.2倍	0.0%	9	9	9	9	1.0倍	0.0%
		文化教育開発専攻	22	26	21	20	1.2倍	4.8%	22	36	28	27	1.6倍	3.6%	22	26	21	21	1.2倍	0.0%	22	34	28	28	1.5倍	0.0%	22	40	33	33	1.8倍	0.0%
		教育人間科学専攻	18	30	26	26	1.7倍	0.0%	18	20	17	16	1.1倍	5.9%	18	22	20	20	1.2倍	0.0%	18	18	13	13	1.0倍	0.0%	18	24	21	21	1.3倍	0.0%
合計			49	70	60	59	1.4倍	1.7%	49	68	55	52	1.4倍	5.5%	49	54	47	47	1.1倍	0.0%	49	63	51	51	1.3倍	0.0%	49	73	63	63	1.5倍	0.0%

注1. 「平成25年度」の場合は、平成25年度の入学者に関するデータとなりますので、「志願者」は平成24年度に実施された入学試験における実績をさします。

ただし、秋入学で入学定員を定めている場合は、当該年度に含めてください。(平成25年度の秋入学は当該年度の数には含めないことといたします。)

注2. 学科単位で入試を行っている場合は、実施している単位(学部単位・○類単位など)でかまいません。

注3. 編入学、再入学者を含みます。

注4. 秋入学を実施している場合で入学定員を別に定めている場合は、専攻欄に(秋入学)と付記してください。

(なお、入学定員を若干名としている場合は、集計に含めないことといたします。)

注5. 学部・学科単位以外での入試を行っている場合は、その旨記載してください。

注6. 学部、学科・課程等の名称については、平成25年度現在の組織名とし、母体となる旧組織がある場合は、名称を()書きしてください。

教育学部 平成24年度卒業生就職状況

H25.5.17現在

	卒業者数	(A)	就職決定数 (B)					B/A	非就職者数	
		就職希望者数	一般企業	公務員	教職	一時的な仕事に就いた者	計	就職率 (%)	進学	その他
初等教育教員養成コース	144 (78)	117 (63)	7 (7)	1 (1)	88 (43)	9 (5)	105 (56)	89.74%	22 (12)	17 (10)
特別支援教育教員養成コース	33 (26)	31 (24)	0 (0)	0 (0)	28 (22)	0 (0)	28 (22)	90.32%	2 (2)	3 (2)
第一類	177 (104)	148 (87)	7 (7)	1 (1)	116 (65)	9 (5)	133 (78)	89.86%	24 (14)	20 (12)
自然系コース	29 (9)	15 (7)	0 (0)	0 (0)	9 (4)	3 (2)	12 (6)	80.00%	14 (2)	3 (1)
数理系コース	26 (7)	21 (5)	0 (0)	0 (0)	11 (3)	3 (1)	14 (4)	66.67%	5 (2)	7 (1)
技術・情報系コース	20 (8)	14 (7)	8 (6)	2 (0)	3 (1)	0 (0)	13 (7)	92.86%	6 (1)	1 (0)
社会系コース	22 (2)	16 (2)	2 (1)	1 (0)	9 (0)	1 (1)	13 (2)	81.25%	6 (0)	3 (0)
第二類	97 (26)	66 (21)	10 (7)	3 (0)	32 (8)	7 (4)	52 (19)	78.79%	31 (5)	14 (2)
国語文化系コース	21 (14)	16 (11)	2 (2)	0 (0)	11 (7)	0 (0)	13 (9)	81.25%	5 (3)	3 (2)
英語文化系コース	28 (9)	18 (9)	5 (5)	0 (0)	12 (4)	1 (0)	18 (9)	100.00%	10 (0)	0 (0)
日本語教育系コース	42 (29)	35 (25)	19 (15)	1 (1)	5 (3)	1 (1)	26 (20)	74.29%	7 (4)	9 (5)
第三類	91 (52)	69 (45)	26 (22)	1 (1)	28 (14)	2 (1)	57 (38)	82.61%	22 (7)	12 (7)
健康スポーツ系コース	35 (15)	30 (12)	12 (5)	1 (0)	5 (4)	9 (2)	27 (11)	90.00%	3 (1)	5 (3)
人間生活系コース	27 (23)	25 (21)	15 (12)	2 (2)	1 (1)	3 (3)	21 (18)	84.00%	1 (1)	5 (4)
音楽文化系コース	20 (18)	11 (10)	4 (4)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	8 (8)	72.73%	8 (7)	4 (3)
造形芸術系コース	14 (14)	12 (12)	5 (5)	0 (0)	4 (4)	2 (2)	11 (11)	91.67%	2 (2)	1 (1)
第四類	96 (70)	78 (55)	36 (26)	3 (2)	14 (13)	14 (7)	67 (48)	85.90%	14 (11)	15 (11)
教育学系コース	31 (15)	20 (11)	10 (5)	7 (5)	1 (0)	0 (0)	18 (10)	90.00%	9 (4)	4 (1)
心理学系コース	23 (16)	9 (8)	3 (3)	5 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (7)	88.89%	12 (6)	3 (3)
第五類	54 (31)	29 (19)	13 (8)	12 (9)	1 (0)	0 (0)	26 (17)	89.66%	21 (10)	7 (4)
合計	515 (283)	390 (227)	92 (70)	20 (13)	191 (100)	32 (17)	335 (200)	85.90%	112 (47)	68 (36)

内訳

一時的な仕事に就いた者 (一般職)	一時的な仕事に就いた者 (教員)	非就職者数 (その他)		就職希望者 (Aに入る) (C)
		科目等、研究生、専門学校	就職希望しない	
1 (1)	8 (4)	0 (0)	5 (3)	12 (7)
0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (2)
1 (1)	8 (4)	0 (0)	5 (3)	15 (9)
1 (1)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (1)
0 (0)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (1)
0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (0)
1 (1)	6 (3)	0 (0)	0 (0)	14 (2)
0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (2)
0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (5)
1 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (7)
1 (1)	8 (1)	0 (0)	2 (2)	3 (1)
1 (1)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	4 (3)
0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	3 (2)
0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
2 (2)	12 (5)	1 (1)	4 (4)	11 (7)
0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (1)
0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	1 (1)
0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (2)	3 (2)
5 (5)	27 (12)	1 (1)	13 (9)	55 (27)

* () は女子で内数です。

* 現職継続, 海外勤務者, 家業を継ぐ, 自営は, 「就職決定数」に入れています。

注意事項

* 就職希望者数 (A)

・ 就職決定者数 (B) + 就職希望者 (卒業後も就職活動が続ける) (C)
 (就職決定者数 + 「もみじ就職決定入力」の [決定進路区分名] の「上記の進路以外」の「卒業後も就職活動が続ける」の者)

* 一時的な仕事に就いた者

・ 雇用形態区分の [正職員と同じ勤務形態] は除く。

* 非就職者数

・ 進学

進路決定区分名の [研究生, 科目等履修生] 及び [専門学校] は除く。

進路の状況(1)

(広島大学)

学部		平成20年度										平成21年度										平成22年度										平成23年度										平成24年度									
学	科	卒業	進学	専修	就職	不詳	死亡	その他	卒	進	専	就	不詳	死	その他	卒	進	専	就	不詳	死	その他	卒	進	専	就	不詳	死	その他	卒	進	専	就	不詳	死	その他															
教育学部	第一類(学校教育系)	179	15	0	134	25	0	5	2.8%	181	20	1	144	15	0	1	0.6%	187	21	6	132	27	0	1	0.5%	179	20	2	144	12	0	1	0.6%	177	24	0	133	15	0	5	2.8%										
	第二類(科学文化教育系)	99	33	2	53	9	0	2	2.0%	106	31	3	64	8	0	0	0.0%	96	29	2	56	9	0	0	0.0%	94	29	0	52	10	0	3	3.2%	97	31	0	52	14	0	0	0.0%										
	第三類(言語文化教育系)	94	24	1	56	10	0	3	3.2%	81	18	0	49	13	0	1	1.2%	85	19	0	54	12	0	0	0.0%	84	17	1	62	2	0	2	2.4%	91	20	2	57	12	0	0	0.0%										
	第四類(生涯活動教育系)	93	20	0	64	2	1	6	6.5%	100	28	3	55	11	0	3	3.0%	99	29	2	60	5	0	3	3.0%	96	26	1	57	9	0	3	3.1%	96	14	0	67	11	0	4	4.2%										
	第五類(人間形成基礎系)	60	16	1	38	5	0	0	0.0%	62	21	4	27	7	0	3	4.8%	58	20	0	32	6	0	0	0.0%	62	22	1	32	7	0	0	0.0%	54	20	1	26	3	0	4	7.4%										
	合計		525	108	4	345	51	1	16	3.0%	530	118	11	339	54	0	8	1.5%	525	118	10	334	59	0	4	0.8%	515	114	5	347	40	0	9	1.7%	515	109	3	335	55	0	13	2.5%									

博士課程前期		平成20年度										平成21年度										平成22年度										平成23年度										平成24年度									
研究科	分野	専攻	修了	進学	専修	就職	不詳	死亡	その他	卒	進	専	就	不詳	死	その他	卒	進	専	就	不詳	死	その他	卒	進	専	就	不詳	死	その他	卒	進	専	就	不詳	死	その他														
教育学研究科	社会	学習科学専攻	25	3	0	20	1	0	1	4.0%	23	1	0	22	0	0	0	0.0%	22	1	0	14	7	0	0	0.0%	28	4	1	18	2	0	3	10.7%	22	0	0	20	2	0	0	0.0%									
		特別支援教育学専攻	3	1	0	2	0	0	0	0.0%	3	1	0	2	0	0	0	0.0%	4	0	0	4	0	0	0	0.0%	2	0	0	2	0	0	0	0.0%	6	1	0	4	1	0	0	0.0%									
		科学文化教育専攻	39	2	1	34	2	0	0	0.0%	40	4	0	31	4	0	1	2.5%	41	4	0	26	11	0	0	0.0%	37	3	0	29	5	0	0	0.0%	40	5	0	34	1	0	0	0.0%									
		言語文化教育専攻	37	7	1	22	7	0	0	0.0%	33	7	0	21	3	0	2	6.1%	38	7	1	24	3	0	3	7.9%	42	8	0	26	3	0	5	11.9%	43	7	0	26	6	0	4	9.3%									
		生涯活動教育学専攻	22	1	0	18	3	0	0	0.0%	35	5	1	19	6	0	4	11.4%	30	1	1	21	5	0	2	6.7%	35	4	2	19	5	0	5	14.3%	30	2	0	21	5	0	2	6.7%									
		教育学専攻	15	5	0	3	2	2	3	20.0%	17	5	1	6	5	0	0	0.0%	15	3	0	8	3	0	1	6.7%	17	3	0	11	1	0	2	11.8%	13	2	0	6	5	0	0	0.0%									
		心理学専攻	20	11	1	7	1	0	0	0.0%	16	5	0	9	2	0	0	0.0%	23	2	0	16	4	0	1	4.3%	20	8	0	10	2	0	0	0.0%	23	7	0	13	3	0	0	0.0%									
高等教育開発専攻	2	1	0	1	0	0	0	0.0%	3	0	0	2	0	0	1	33.3%	5	2	0	1	2	0	0	0.0%	3	1	0	1	1	0	0	0.0%	2	1	0	0	0	0	1	50.0%											
合計		163	31	3	107	16	2	4	2.5%	170	28	2	112	20	0	8	4.7%	178	20	2	114	35	0	7	3.9%	184	31	3	116	19	0	15	8.2%	179	25	0	124	23	0	7	3.9%										

博士課程後期		平成20年度										平成21年度										平成22年度										平成23年度										平成24年度									
研究科	分野	専攻	修了	進学	専修	就職	不詳	死亡	その他	卒	進	専	就	不詳	死	その他	卒	進	専	就	不詳	死	その他	卒	進	専	就	不詳	死	その他	卒	進	専	就	不詳	死	その他														
教育学研究科	社会	学習開発専攻	8	0	1	6	1	0	0	0.0%	6	0	1	4	0	0	1	16.7%	12	0	2	9	0	0	1	8.3%	8	0	0	7	1	0	0	0.0%	9	0	0	7	0	0	2	22.2%									
		文化教育開発専攻	22	0	1	19	1	0	1	4.5%	28	0	1	17	4	0	6	21.4%	23	0	1	19	2	0	1	4.3%	19	0	0	17	2	0	0	0.0%	20	0	0	18	0	0	2	10.0%									
		教育人間科学専攻	16	0	1	12	3	0	0	0.0%	21	0	0	19	0	0	2	9.5%	11	0	0	9	1	0	1	9.1%	19	0	0	18	0	0	1	5.3%	14	0	0	10	1	0	3	21.4%									
合計		46	0	3	37	5	0	1	2.2%	55	0	2	40	4	0	9	16.4%	46	0	3	37	3	0	3	6.5%	46	0	0	42	3	0	1	2.2%	43	0	0	35	1	0	7	16.3%										

※「卒業生数」は、大学院研究科、大学学部、短期大学本科、専攻科、別科を含みます。

※「専修・外国」とは、注1以外の者で、学校その他教育施設に入学(在籍)している者を指します(例えば、専修学校、各種学校、外国の学校及び職業能力開発校への入学者、研究生として入学した者が含まれる。)

※「就職者数」には、「正規の職員・従業員・自営業主・正規の職員でない者・臨床研修医・一時的な仕事に就いた者」が含まれる。

平成24年度卒業・修了者就職状況

56%

H25.5.17現在

	卒業生数	(A)	就職決定数 (B)					B/A	非就職者数		一時的な仕事に就いた者 (一般職)	一時的な仕事に就いた者 (教員)	非就職者数 (その他)		就職希望者 (Aに入る) (C)
		就職希望者数	一般企業	公務員	教職	一時的な仕事に就いた者	計	就職率 (%)	進学	その他			科目等、研究生、専門学校	就職希望しない	
教育学部	515 (283)	390 (227)	92 (70)	20 (13)	191 (100)	32 (17)	335 (200)	85.90%	112 (47)	68 (36)	5 (5)	27 (12)	1 (1)	13 (9)	55 (27)
教育学研究科 (M)	179 (103)	147 (87)	17 (14)	11 (10)	83 (38)	13 (10)	124 (72)	84.35%	25 (11)	30 (20)	3 (3)	10 (7)	0 (0)	7 (5)	23 (15)
特別支援教育特別専攻科	16 (11)	16 (15)	0 (0)	0 (0)	6 (4)	2 (2)	8 (6)	50.00%	2 (2)	6 (3)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	6 (3)
合計	710 (397)	553 (329)	109 (84)	31 (23)	280 (142)	47 (29)	467 (278)	84.45%	139 (60)	104 (59)	8 (8)	39 (21)	1 (1)	20 (14)	84 (45)

* () は女子で内数です。

* 現職継続、海外勤務者、家業を継ぐ、自営は、「就職決定数」に入れています。

注意事項

* 就職希望者数 (A)

- ・ 就職決定者数 (B) + 就職希望者 (卒業後も就職活動を続ける) (C)
(就職決定者数 + 「もみじ就職決定入力」の [決定進路区分名] の「上記の進路以外」の「卒業後も就職活動を続ける」の者)

* 一時的な仕事に就いた者

- ・ 雇用形態区分の [正職員と同じ勤務形態] は除く。

* 非就職者数

- ・ 進学
進路決定区分名の [研究生、科目等履修生] 及び [専門学校] は除く。

教育学研究科博士課程（前期）平成23年度修了者就職状況

H24.5.21作成

	修了者数	(A)	就職決定[正規・臨探]数(B)				B/A 就職率 (%)	非常勤職員 (教員含む)	非就職者数		現職復帰 (海外は除く)
		就職 希望者数	一般企業	公務員	教職	計			進学	その他	
学習開発基礎	14 (7)	8 (2)	1 (0)	0 (0)	6 (1)	7 (1)	87.50%	1 (0)	2 (2)	2 (2)	1 (1)
カリキュラム開発	14 (11)	8 (6)	0 (0)	0 (0)	7 (5)	7 (5)	87.50%	0 (0)	2 (1)	2 (2)	2 (2)
特別支援教育学専攻	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)
自然システム教育学	17 (4)	12 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (3)	11 (3)	91.67%	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (1)
数学教育学	6 (0)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (0)	5 (0)	100.00%	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
技術・情報教育学	7 (0)	6 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	4 (0)	66.67%	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)
社会認識教育学	7 (2)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	33.33%	2 (1)	2 (0)	0 (0)	0 (0)
国語文化教育学	8 (1)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	4 (0)	80.00%	3 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
英語文化教育学	13 (7)	7 (3)	1 (1)	0 (0)	6 (2)	7 (3)	100.00%	1 (0)	0 (0)	5 (4)	0 (0)
日本語教育学	21 (13)	6 (4)	1 (1)	0 (0)	3 (1)	4 (2)	66.67%	1 (1)	8 (4)	6 (4)	0 (0)
健康スポーツ教育学	16 (4)	7 (2)	2 (1)	0 (0)	4 (1)	6 (2)	85.71%	3 (1)	1 (0)	3 (0)	2 (1)
人間生活教育学	5 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	25.00%	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)
音楽文化教育学	11 (5)	4 (2)	0 (0)	0 (0)	3 (2)	3 (2)	75.00%	0 (0)	3 (0)	3 (2)	1 (1)
造形芸術教育学	3 (3)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	100.00%	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
教育学専攻	17 (9)	6 (3)	0 (0)	1 (1)	4 (2)	5 (3)	83.33%	1 (0)	3 (2)	3 (1)	4 (3)
心理学専攻	20 (11)	9 (6)	5 (2)	2 (2)	0 (0)	7 (4)	77.78%	2 (2)	8 (2)	0 (0)	1 (1)
高等教育開発専攻	3 (0)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	50.00%	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	184 (82)	93 (37)	12 (5)	5 (4)	57 (18)	74 (27)	79.57%	17 (7)	31 (11)	28 (16)	15 (11)

- * () は女子で内数です。
- * 就職希望者数の中には「非常勤職員（教員含む）」は含まれていません。
- * 現職復帰、海外勤務者、進路未定者は「その他」に入れています。

注意事項

- * 就職希望者数 (A)
 - ・ 就職決定者数 (B) + 就職希望者 (卒業後も就職活動を続ける) (C)
 - (就職決定者数 + 「もみじ就職決定入力」の「決定進路区分名」の「上記の進路以外」の「卒業後も就職活動を続ける」の者)
- * 就職決定数
 - ・ 海外勤務者は除く。
 - (教職は、外国の学校は除く。)
- * 非常勤職員 (教員含む)
 - ・ 海外勤務者は除く。
 - ・ 雇用形態区分の「正職員と同じ勤務形態」は除く。(「正職員と同じ勤務形態」の者は、就職決定者に入れています)
- * 非就職者数
 - ・ 進学
 - 進路決定区分名の「研究生、科目等履修生」及び「専門学校」は除く。

内訳

非常勤職員 (一般職)	非常勤職員 (教員)	非就職者数 (その他)				就職希望者 (Aに入る) (C)
		科目等、研究 生、専門学校	就職希望しない	家業	海外就職 (現職復帰含む)	
0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)
0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)
0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)
0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)
0 (0)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	3 (2)	0 (0)
0 (0)	1 (1)	0 (0)	3 (2)	0 (0)	3 (2)	2 (2)
0 (0)	3 (1)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (3)
0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (2)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	1 (0)	1 (0)
2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)
0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
2 (2)	15 (5)	3 (1)	15 (11)	0 (0)	10 (4)	19 (10)

72

教育学研究科(課程博士)学位授与率

専攻名	学位授与率																	
	平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成22年度			平成23年度			平成24年度		
	H17 入学者 A	H19 修了者 B	B/A*100	H18 入学者 A	H20 修了者 B	B/A*100	H19 入学者 A	H21 修了者 B	B/A*100	H20 入学者 A	H22 修了者 B	B/A*100	H21 入学者 A	H23 修了者 B	B/A*100	H21 入学者 A	H23 修了者 B	B/A*100
学習開発専攻	9	4	44.4	10	5	50.0	16	4	25.0	10	5	50.0	13	2	15.4	9	5	55.6
文化教育開発専攻	24	5	20.8	26	12	46.2	38	13	34.2	32	12	37.5	20	9	45.0	27	7	25.9
教育人間科学専攻	20	6	30.0	22	3	13.6	24	5	20.8	22	3	13.6	26	5	19.2	16	4	25.0
合計	53	15	28.3	58	20	34.5	78	22	28.2	64	20	31.3	59	16	27.1	52	16	30.8

学位授与率算出式

標準修了年入学者数 ÷ 標準修了年入学者の修了者 × 100

教育学研究科(課程博士)学位授与数

専攻名	学位授与数						合計
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
学習開発専攻	7	8	6	10	7	7	38
文化教育開発専攻	8	21	24	21	14	15	88
教育人間科学専攻	16	12	13	7	16	8	64
合計	31	41	43	38	37	30	190

広島大学大学院教育学研究科出身の研究者数

2012年10月1日現在の在職者

講座等名	日本の大学の教員数 (教員養成関係部署 に所属)	日本の大学の教員数 (教員養成以外の部 署に所属)	日本の大学以外の機 関に所属する教員・ 研究者数	国外の大学・研究機 関に所属する教員・ 研究者数	合計	
学習開発学	37	4	—	1	42	92
初等カリキュラム開発学	28	0	—	4	32	
特別支援教育学	4	7	2	5	18	
自然システム教育学	31	2	5	2	40	539
数学教育学	40	0	1	—	41	
技術・情報教育学	5	2	7	—	14	
社会認識教育学	53	5	1	1	60	
国語文化教育学	39	7	2	—	48	
英語文化教育学	26	55	7	—	88	
日本語教育学	9	29	5	34	77	
健康スポーツ科学	44	26	—	14	84	
人間生活教育学	29	7	—	—	36	
音楽文化教育学	35	1	—	2	38	
造形芸術教育学	10	1	—	2	13	
教育学	259	69	—	15	343	683
心理学	121	146	2	—	269	
幼年教育研究施設	58	11	—	2	71	
合計	828	372	32	82	1314	

15401

研究機関：広島大学

研究種目 審査区分	領域 又は 細目	特定 項目 番号	課題番号 整理 番号	研究代表者 所属：職 氏 名	応募額 平成25年度	交付予定額（円）					研究課題名	研究者 番号						
						直接/間接経費		直接経費										
						平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度			平成30年度					
基盤A 一般	★		23240106 5001	その他の研究科 池田 秀雄	教授	5,400,000	5,400,000 1,620,000	5,400,000	6,100,000	0	0	0	アジア・アフリカ諸国の理数科教育協力に関する総合的研究	50112165				
"	★		23240121 5001	文学研究科 中田 高	名誉教授	8,500,000	8,500,000 2,550,000	4,600,000	0	0	0	0	詳細DEM画像による日本列島周辺海域の変動地形学的研究	60089779				
"	★	前	23241029 5001	工学系研 大橋 晶良	教授	9,400,000	9,400,000 2,820,000	7,800,000	0	0	0	0	0	懸培養微生物の高濃度化が可能なDHSリアクターの環境保全と資源回収への適用拡大	70169035			
"	★		23242020 5001	教育学研 酒井 弘	教授	7,000,000	7,000,000 2,100,000	7,000,000	3,700,000	0	0	0	0	言語の多様性と認知神経システムの変異性—東アジア言語の比較を通じた解明—	50274030			
"	★		23244030 5001	875 吉田 道利	教授	12,800,000	12,800,000 3,840,000	0	0	0	0	0	0	安価な高感度・大フォーマット近赤外線検出器の基礎開発	90270446			
"	★		23244055 5001	理学系 杉立 徹	教授	9,800,000	9,800,000 2,940,000	7,500,000	0	0	0	0	0	LHC鉛原子核衝突ALICE実験による横運動量抑制現象とQP熱統計力学状態	80144806			
"			23244066 5001	放射光研 奥田 太一	准教授	6,300,000	6,300,000 1,890,000	0	0	0	0	0	0	高効率スピンドル分解光電子分光法の高度化とスピントロニクス材料の3次元スピンドル解析	80313120			
"			23245041 5001	工学系研 瀧宮 和男	教授	5,500,000	5,500,000 1,650,000	2,600,000	2,600,000	0	0	0	0	0	未踏有機半導体骨格の探索と応用	40263735		
"	★		23249064 5001	その他の研究科 大段 秀樹	教授	10,600,000	10,600,000 3,180,000	0	0	0	0	0	0	0	CD47-SIRPαシグナルを介した癌細胞免疫回避機構の解明とその制御法の開発	10363061		
"	★		24240094 5001	教育学研 平田 道憲	教授	17,100,000	17,100,000 5,130,000	2,300,000	2,800,000	0	0	0	0	0	生活時間配分からみた40年間のライフスタイル変化と国際比較	30111660		
"	★		24243078 5001	教育学研 植田 敦三	教授	6,000,000	6,000,000 1,800,000	5,900,000	6,200,000	5,000,000	0	0	0	0	学会による日本型数学教育の国際的発信を目指す基礎研究	50168621		
"	★		24244014 5002	理学系 深沢 泰司	教授	10,700,000	10,700,000 3,210,000	3,500,000	7,800,000	2,900,000	0	0	0	0	GeVガンマ線観測および多波長偏光観測による活動銀河核ジェットの構造の解明	60272457		
"		前	24246063 5001	875 板波 康文	その他	9,500,000	9,500,000 2,850,000	9,500,000	0	0	0	0	0	0	高速ボリマ光変調器の超低消費電力化	90377474		
"	★		24246071 5001	工学系研 石井 抱	教授	9,500,000	9,500,000 2,850,000	9,100,000	6,600,000	0	0	0	0	0	実時間モード解析を用いたダイナミクススペース画像検査法	40282686		
"	★		24246077 5001	工学系研 佐藤 良一	その他	8,900,000	8,900,000 2,670,000	5,500,000	0	0	0	0	0	0	RCはりの性能に及ぼす収縮影響評価に関する耐久性力学の展開	20016702		
"	★		24246126 5002	工学系研 都留 稔丁	教授	11,600,000	11,600,000 3,480,000	6,200,000	0	0	0	0	0	0	Molecular-Net Sievingの提案と超薄膜分離膜の創製	20201642		
"	★		24249039 5001	医研 大瀧 慈	教授	8,500,000	8,500,000 2,550,000	8,600,000	0	0	0	0	0	0	若齢期放射線被曝による晩発障害に関する社会医学的研究	20110463		
"	★		24249084 5001	875 檜山 英三	教授	10,900,000	10,900,000 3,270,000	11,000,000	0	0	0	0	0	0	ゲノミクスとセロミクスを用いた小児癌の分子標的探索—がん幹細胞を標的として—	00218744		
"	★	1403	25241014 0002	総合科学研究科 福岡 正人	教授	28,050,000	19,700,000 5,910,000	5,500,000	5,400,000	0	0	0	0	0	沿岸地下におけるリンのホットスポット形成とその生物生産に及ぼす影響の定量的評価	70117232		
"	★	1602	25241028 0001	総合科学研究科 小野寺 真一	准教授	24,350,000	17,100,000 5,130,000	7,600,000	6,100,000	0	0	0	0	0	0	過水リスク農業地域における持続可能な流域地下水ハイブリッド再利用システムの構築	50304366	
"	★	前	25242015 0001	教育学研 古賀 信吉	教授	18,000,000	13,100,000 3,930,000	7,900,000	8,200,000	4,600,000	0	0	0	0	0	探究的な学習活動を機軸とする中等科学教育の新たな展開を指向した教育システムの開発	30240873	
"		A	25242077 0001	その他の研究科 内匠 透	教授	18,000,000	13,900,000 4,170,000	11,200,000	11,200,000	0	0	0	0	0	0	気分障害と概日リズムの分子相関理解のための統合的研究	00222092	
"	★	5507	25249027 0001	875 三宅 亮	教授	12,400,000	9,200,000 2,760,000	9,600,000	8,700,000	0	0	0	0	0	0	ペーパーマイクロ検査チップ及びシステム化技術に関する研究	50417052	
"	★	5603	25249050 0001	875 吉川 公麿	教授	10,783,000	8,000,000 2,400,000	7,000,000	6,900,000	6,800,000	5,600,000	0	0	0	0	0	腫瘍の血管新生密度分布計測技術の研究	60304458
"		6004	25249117 0001	先端物質 黒田 章夫	教授	8,225,000	6,100,000 1,830,000	9,300,000	9,300,000	9,300,000	0	0	0	0	0	0	無機物質に結合する特異ペプチドの分子設計の基礎技術	50205241

※間接経費は直接経費の外敷である。
 ※★印は「分担金有」で応募した研究課題。
 ※研究課題名については、半角80文字（全角40文字）までを表示している。

広島大学大学院教育学研究科

共同研究プロジェクト
報告書

(第11巻)

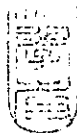
平成25年3月

広島大学大学院教育学研究科

目 次

1. 社会のグローバル化に対応する教員養成システムにおける
相互交流型プログラムの開発研究
..... 松浦 武人・他 (1)
2. 大学と教育委員会との連携・協働による
初等教育教員の「養成－研修システム」構築の可能性と課題
..... 鈴木由美子・他 (13)
3. 初等教育教員養成モデル・コア・カリキュラムの開発
－教科指導を中心に－ 朝倉 淳・他 (27)
4. 学生生活指導と連動した初等教育教員養成の展望と課題
..... 伊藤 圭子・他 (43)
5. 学部・大学院を連携した教員養成教育カリキュラムの開発
－教職実践演習による学部教育と大学院教育とのリンク－ (第3年次)
..... 松浦 拓也・他 (57)
6. 教員養成モデル・コア・カリキュラム作成のための教科構成原理の探究
(第2年次) 深澤 清治・他 (69)
7. 教職高度化プログラムの改革に関する調査研究
－アクションリサーチを中心に－ 小原 友行・他 (83)
8. 広島大学の特徴を活かした「教職実践演習」とは何か？
.....松見 法男・他 (99)
9. 家庭科教員養成におけるポートフォリオ評価材に関する研究
..... 平田 道憲・他 (115)
10. ワーキングメモリプロフィールに応じた特別支援データベースの開発 (3)
..... 前田 健一・他 (131)
11. 保育者の自発的な専門性向上のための大学研究者の役割
..... 中坪 史典・他 (145)
12. 大学生が求める大学教員からの心理的支援 (2)
－教員からみた大学生の不登校リスク－ 荒井佐和子・他 (159)
13. 教科教育学再構築プロジェクト
－第一年次報告：現状と課題－ 池野 範男・他 (171)

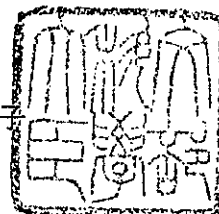
14. 大学教員（授業者）と大学院生（TA）との協働による
授業改善システムの構築に関する開発的研究
..... 丸山 恭司・他（187）
15. 子どもの学び支援実習が学生の専門的実践力育成に及ぼす効果
－教師効力感の育成をめざして－
..... 岡 直樹・他（203）
16. 後期中等教育段階における特別支援教育のモデル構築に関する基礎的研究
..... 落合 俊郎・他（217）
17. 科学技術と人間生活を機軸とする教科横断的学習活動のモデル探索
..... 網本 貴一・他（235）
18. カリキュラムR&Dセンター構想の可能性と課題（1）
..... 草原 和博・他（249）
19. 各教科（校種別）の授業研究を通じた教職・教科教育・教科内容の
連携・教員協働の在り方に関する研究
..... 三村 真弓・他（265）



24受文科高第2945号
平成24年12月21日

国立大学法人広島大学長

文部科学大臣
田中真紀子



平成24年度研究拠点形成費等補助金（卓越した大学院
拠点形成支援補助金）の交付決定について（通知）

さきに交付申請のありました平成24年度研究拠点形成費等補助金（卓越した大学院拠点形成支援補助金）につきましては、研究拠点形成費等補助金交付要綱（平成14年4月1日文部科学大臣決定、平成24年4月1日改正）第6条第1項の規定により、下記のとおり交付することに決定しましたので、通知します。

記

1. 補助金の交付の対象となる事業の内容は交付申請書に記載のとおりとする。
2. 補助金の交付決定額は、金 180,339,000 円とする。
3. 補助金の確定額は、補助事業に要した経費の額と補助金の交付決定額のいずれか低い額とする。
4. 補助事業者は、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）、同法施行令（昭和30年政令第255号）及び研究拠点形成費等補助金交付要綱に従わなければならない。また、その他関係法令及び指針等を遵守すること。
5. 補助条件は、前項に定めるもののほか次のとおりとする。
 - (1) 補助事業者は、補助事業の内容及び経費の配分を変更しようとするときは、あらかじめ文部科学大臣（以下「大臣」という。）の承認を受けなければならない。ただし、補助事業の目的を変えない場合で次に掲げる軽微な変更についてはこの限りではない。
 - ①補助金の交付決定額に影響を及ぼすことなく、その変更が補助目的の達成をより効率的にする場合

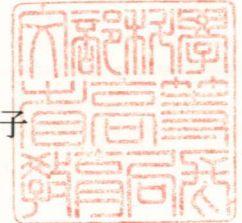
②補助金の交付決定額に影響を及ぼすことなく、各補助対象経費（物品費、人件費・謝金、旅費、その他）の額を補助金の交付決定額の50%以内で増減する場合

- (2) 補助事業者は、補助事業を中止又は廃止しようとするときは、大臣の承認を受けなければならない。
 - (3) 補助事業の実施期間は、平成25年3月31日までとする。なお、補助事業が予定の期間内に完了することができないと見込まれる場合又は補助事業の遂行が困難となった場合においては、補助事業者は速やかに大臣にその旨を届け、その指示を受けなければならない。
 - (4) 補助事業者は、補助事業を遂行するため契約を締結し支払を行う場合は、国の契約及び支払に関する規定の趣旨に従い、公正かつ最小の費用で最大の効果をあげるように経費の効率的使用に努めなければならない。
 - (5) 補助事業者は、補助事業を完了したとき又は補助金の交付の決定に係る国の会計年度が終了したときは翌年度の5月31日まで、廃止の承認を受けたときはその日から1か月を経過した日までに補助事業の経過等を記載した実績報告書を作成し、大臣に提出しなければならない。
 - (6) 補助事業者は、補助事業で得られた成果に係る特許権等の知的財産権を得た場合には、大臣に報告しなければならない。
 - (7) 補助事業者が、この補助金による成果により利益を得た場合には、その利益の範囲内において補助金の返還を命ずることがある。
 - (8) 補助事業者は、補助金により取得し、又は効用の増加した財産（以下「取得財産等」という。）については、補助事業の完了後においても、善良な管理者の注意をもって管理し、補助金交付の目的に従って、その効率的運用を図らなければならない。
 - (9) 補助事業者が、取得財産等を処分することにより、収入があり、又はあると見込まれるときは、交付した補助金の全部又は一部に相当する金額を国に納付させることがある。
 - (10) 補助事業者は、補助事業の実施に当たり、法令、通知及び各研究機関等で定めた規定等により、承認・届出・確認等が必要な場合は所定の手続を行わなければならない。
6. この交付決定の内容又はこれに付された条件に対して不服があることにより、補助金交付の申請を取り下げようとするときは、平成25年1月7日までにその旨を記載した書面を大臣に提出すること。

25文科高第109号
平成25年4月26日

「卓越した大学院拠点形成支援補助金」
採択機関設置者 殿

文部科学省高等教育局長
板 東 久 美 子



「卓越した大学院拠点形成支援補助金」（研究拠点形成費等
補助金（若手研究者養成費））の交付内定について（通知）

「卓越した大学院拠点形成支援補助金」の補助金交付内定額については、別紙のとおりとなりましたので通知します。

本補助金の取扱いについては、下記事項に留意し、また、「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）」、「研究拠点形成費等補助金交付要綱（平成14年4月1日文部科学大臣決定、平成25年4月1日改正）」、「平成25年度研究拠点形成費等補助金（若手研究者養成費）《卓越した大学院拠点形成支援補助金》取扱要領」にのっとり、遺漏のないようお願いします。

また、補助金交付内定額は、あくまで現時点での見通しであるとともに、各大学等からの補助金交付申請書の内容等を踏まえ、額の変更等がありうることを申し添えます。

記

- (1) 交付の内定をした補助金については、研究拠点形成費等補助金の目的・性格を踏まえ、本年度の事業実施期間を勘案し、補助金交付内定額の範囲内で交付申請書を作成し、平成25年5月24日（金）までに文部科学省高等教育局大学振興課宛てへ御提出ください。
- (2) 提出期限までに交付申請書を提出しなかった場合は、交付の内定を取り消す場合がありますので注意してください。
- (3) 本内定通知は、本補助金の平成25年度予算が成立しない場合においては失効することをあらかじめ御留意ください。

(4) 本補助事業については、平成25年4月26日より事業着手となりますので御留意願います。

《問合せ先・書類提出先》

〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2

文部科学省高等教育局大学振興課

TEL : 03-5253-4111 (内線 3317)

FAX : 03-6734-3387

Mail : daikaika@mext.go.jp

広島大学教育学部・大学院教育学研究科

高等学校教員のための 指導力向上セミナー

平成
23年

1月10日祝

9:00~16:00

大阪大学
中之島センター7階

第1部

9:00

12:00

講演

「新高等学校学習指導要領の実施に向けて

— 背景とねらい —

国立教育政策研究所総括研究官兼文部科学省視学官 吉富 芳正

「高大連携の可能性」

広島大学副学長 坂越 正樹

第2部

13:30

16:00

ワークショップ

第1分科会

PISAの学力を読む

国立教育政策研究所総合研究官 猿田 祐嗣

広島大学附属福山中・高等学校

第2分科会

学力向上への高等学校
の取り組み

京都市立堀川高等学校

大阪府立箕面高等学校

兵庫県立小野高等学校

■ 入場料及び参加費 ■

無 料

■ 申し込みの方法 ■

12月27日までに下記のところへ

申し込みください。

Email: iso.hirodai@gmail.com

または

FAX : 082-424-6814

件名/高等学校教員のための指導力向上
セミナー参加

内容/ご所属・お名前・連絡先、
第2部ワークショップの分科会名

■ 主 催 ■

広島大学大学院教育学研究科

■ 後 援 ■

文部科学省・京都府教育委員会・
大阪府教育委員会・兵庫県教育委員会・
和歌山県教育委員会・大阪市教育委員会・
神戸市教育委員会 (以上、許可済み)
滋賀県教育委員会・奈良県教育委員会・
京都市教育委員会 (以上、申請中)

【大阪大学中之島センターまでのアクセス】

★電車によるアクセス

- 京阪「中之島駅」6番出口より徒歩約5分、京阪「渡辺橋駅」1番出口より徒歩約5分
- 阪神本線「福島駅」より徒歩約9分
- JR東西線「新福島駅」より徒歩約9分
- JR環状線「福島駅」より徒歩約12分
- 地下鉄四ツ橋線「肥後橋駅」4番出口より徒歩約10分
- 地下鉄御堂筋線「淀屋橋駅」7番または4番出口より徒歩約16分

★バスによるアクセス

- 「JR大阪駅前/スターミナル」から市バス(53系統 船津橋行「中之島四丁目(旧 玉江橋)」下車徒歩約1分)(75系統 鶴町四丁目行「田養橋」下車徒歩約2分)

※大阪大学中之島センターの正面玄関は中之島通に面しております。10階建ての最上階がガラス張りで見える建物が大阪大学中之島センターです。

※タクシーでお越しの場合は「大阪市立科学館北側の「大阪大学中之島センター」と、お伝え下さい。



2011
年度

高等学校教員のための指導力向上 セミナー

第1部

9:00

12:00

講演

「新しい高等学校学習指導要領と
ICTの活用」

文部科学省 初等中等教育局視学官 永井 克昇

「新しい学習指導要領における
評価の考え方」

広島大学大学院教育学研究科教授 松浦 伸和

第2部

13:30

16:00

ワークショップ

教科教育の最先端

—これからの高校教育はどう変わるか—

第1分科会

これからの高校国語科教育はどう変わるか

第2分科会

これからの高校地理歴史科・公民科教育はどう変わるか

第3分科会

ICTの活用による高校教育改革
—学校をどう変えるか—

平成
24年

3月20日祝

9:00~16:00

サンポート高松
高松シンボルタワー内
6階会議室

■ 入場料及び参加費 ■
無 料

■ 申し込みの方法 ■

2月29日(水)までに下記のところへ
申し込みください。

Email: hiro dai.hs.seminar@gmail.com

または

FAX : 082-424-3478

件名 / 高等学校教員のための指導力向上
セミナー参加

内容 / ご所属・お名前・連絡先、
第2部ワークショップの分科会名

■ 主 催 ■

広島大学大学院教育学研究科

■ 共 催 ■

広島大学大学院文学研究科・理学研究科・尚志会

■ 後 援 ■

香川県教育委員会・徳島県教育委員会
高知県教育委員会・岡山県教育委員会
(以上、許可済み)

文部科学省・愛媛県教育委員会・岡山市教育委員会
(以上、申請中)



■ サンポート高松(高松シンボルタワー)までのアクセス

★電車によるアクセス

- JR 高松駅から徒歩約3分
- ことでん高松築港駅から徒歩約5分

★飛行機によるアクセス

- 高松空港からことでん高松空港連絡リムジンバス
JR 高松駅行き約40分

★フェリーによるアクセス

- 高松港フェリー乗り場から徒歩約5分

2012
年度

高等学校教員のための指導力向上セミナー

第1部

10:00

12:30

講演

「生きる力」を育む教育課程

文部科学省初等中等教育局視学官 長尾 篤志

教員の資質能力向上を目指した 人事評価制度の活用とその留意点

広島大学大学院教育学研究科教授 古賀 一博

第2部

14:30

16:30

ワークショップ

教科教育の最先端

－これからの高校教育はどう変わるか－

第1分科会

授業は「英語」での現状と課題

第2分科会

高校音楽科教育の新しい方向性を考える

第3分科会

教科の枠をこえた授業研究のあり方を探る

平成
24年

8月10日 金

10:00~16:30

JR博多シティ
10階会議室

■ 入場料及び参加費 ■

無 料

■ 申し込みの方法 ■

7月20日(金)までに下記のところへ
お申し込みください。

定員は100名です。会場定員を超えた時点で入場をお断りしなくてはなりませんので、お早めにお申し込みください。

Email: hiro dai.hs.seminar@gmail.com

または

FAX : 082-424-3476

件名/高等学校教員のための指導力向上
セミナー参加

内容/ご所属・お名前・連絡先、
第2部ワークショップの分科会名

■ 主 催 ■

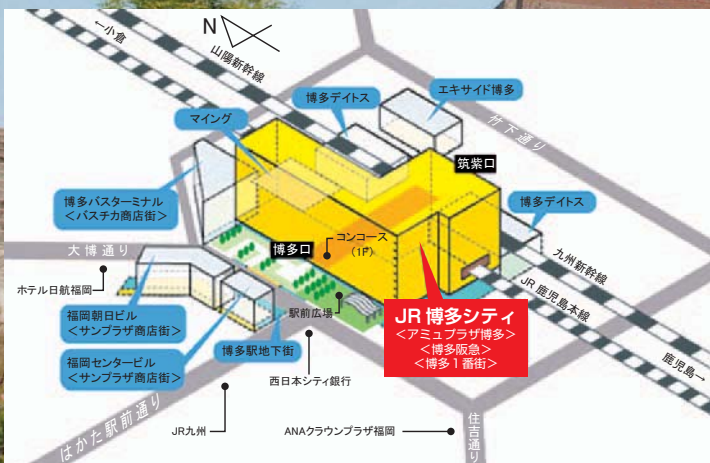
広島大学大学院教育学研究科

■ 共 催 ■

広島大学大学院文学研究科・理学研究科・尚志会

■ 後 援 ■

文部科学省・福岡県教育委員会・佐賀県教育委員会・
長崎県教育委員会・熊本県教育委員会・大分県
教育委員会・宮崎県教育委員会・鹿児島県教育委
員会・山口県教育委員会・北九州市教育委員会・
福岡市教育委員会・熊本市教育委員会(申請中)



■ JR博多シティまでのアクセス

★鉄道によるアクセス

- 熊本から約35分(九州新幹線)
- 鹿児島から約1時間20分(九州新幹線)
- 山口から約35分(山陽新幹線)

★飛行によるアクセス

- 福岡空港から約5分(地下鉄)

★フェリーによるアクセス

- 博多港から約15分

文部科学省委託事業

学者・専門家交流事業

日中韓における教員資質向上のための国際共同研究
授業研究方法論の比較研究シンポジウムとワークショップ

2011年1月28日

広島大学附属小学校に
おける授業研究ワーク
ショップ
(招待者のみ)

2011年1月29日

広島国際会議場 参加無料

●国際シンポジウムⅠ
小学校教員の授業力の向上

9時
9時30分
12時30分

受付
開始
終了

2011年1月30日

広島国際会議場 参加無料

●講演

9時受付 9時30分開始
11時30分終了

●国際シンポジウムⅡ
授業研究の理論と実践

12時30分受付 13時開始
16時30分終了

主催：広島大学大学院教育学研究科
問合せ先：広島大学大学院教育学研究科
難波博孝
hnanba@hiroshima-u.ac.jp
082-424-6785

授業研究による数学及び理科教師の 教授能力向上に関する東アジア4カ国国際会議

PISA型リテラシーの育成を目指す
授業の分析を通して

1 国際ワークショップ

日時 2012年1月27日(金) 13:00~16:30(開場 12:30)

会場 福山ニューキャッスルホテル 2階
曙東(理科), 曙西(数学)

参加国 日本・中国・韓国・シンガポール
(日本語と英語の同時通訳)

プログラム

12:30~13:00 受付

13:00~16:30 数学分科会・理学分科会

「各国の数学・理科の授業ビデオ視聴」

「授業研究を通じた授業改善についての協議」

入場無料

事前申し込みが必要
締切 1月20日(金)

2 国際シンポジウム

日時 2012年1月28日(土) 9:00~17:00(開場 8:30)

会場 広島国際会議場 地下2階 コスモス

参加国 日本・中国・韓国・シンガポール
(日本語と英語の同時通訳)

プログラム

8:30~ 9:00 受付

9:00~10:00 基調講演「日本の数学教育及び理科教育の戦略」

10:15~13:15 テーマ1 授業研究を通じた理科教師の専門的成長

— PISA 型リテラシーの育成を目指す授業を事例として

14:00~17:00 テーマ2 授業研究を通じた数学教師の専門的成長

— PISA 型リテラシーの育成を目指す授業を事例として

入場無料

事前申し込みが必要
締切 1月20日(金)

3 レセプション

日時 2012年1月28日(土) 17:30~19:30

会場 メルパルク広島 6階 平成

会費 6,000円

(参加希望の方は国際シンポジウム受付時に徴収させていただきます。)

主催 広島大学大学院教育学研究科

お申し込み
お問い合わせ

広島大学大学院教育学研究科運営支援グループ

E-mail : ed-sokatsu@office.hiroshima-u.ac.jp

TEL : 082-424-6702 FAX : 082-424-3478



事業計画

	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012以降)	期待される成果
組織整備	「サステナブル・ディベロップメント実践研究センター」を広島大学に設置 ドミニカ共和国に同センターのプラントを設置	センターとプラントの有機的連携 実践的研究、高度研究人材育成支援		広島大学における学際的研究の基盤の整備
工学	ドミニカ共和国のものづくりへの要求の明確化	ドミニカ共和国に求められるものづくり人材像と研究システムの明確化	ドミニカ共和国に適した日本型ものづくり教育の実践と両国間の持続的共有研究システムの構築	広島大学のこれまでの研究成果の実証と社会への還元
環境	海洋油汚染及び油臭魚の実態把握	海洋油汚染のモニタリング及び原因究明	海洋油汚染の対応策の検討	
教育	ドミニカ共和国における教員養成の実態把握	ドミニカ共和国の教員養成に内在する課題の抽出	ドミニカ共和国における次世代育成システムの改善案提起	
農学	ドミニカ共和国における不陸土壌農耕地の実態把握・ドミニカ共和国における農作物の栽培状況の把握	現地農作物の生理・栽培的特性の解明	ドミニカ共和国における持続可能な食料生産と農作物の品質向上について検討	
高度研究人材育成	UASD研究者の招へい 相互交流 広島大学研究者の現地調査	研究交流の促進 研究者との交流を通じた教育研究能力の向上		国際的視野を有する高度研究人材の育成



事業の取組内容

- ① 広島大学に分野横断型の研究組織を立ち上げ、
- ② これまでの成果を統合して実際の現場を対象とした実践的研究を実施し、
- ③ 発展途上国に持続可能な社会システムを構築し高度研究人材を育成する。

中米・カリブ海諸国を
フィールドとした
持続可能な発展に関する研究



お問い合わせ先
 広島大学 国際センター 国際交流グループ
 〒739-8511 東広島市鏡山 1-3-2
 E-mail: kokusaikikaku@office.hiroshima-u.ac.jp
 ホームページ: https://www.hiroshima-u.ac.jp/oa-caribbean/



SD(Sustainable Development)の必要性

環境問題が地球規模で指摘されている現在、持続可能な発展(Sustainable Development, SD)を実現することは全世界共通の極めて重要な課題である。SDの実現のためには、以下に示す様々な意味での総合的思考が重要である。

- 将来の世代の欲求と現在の世代の欲求の両立
- 多様な分野(教育、資源、エネルギー、環境、健康、農業、生物多様性)に跨る総合的問題の解決
- 先進国と発展途上国との協同
- 理論と実践の融合



研究目的

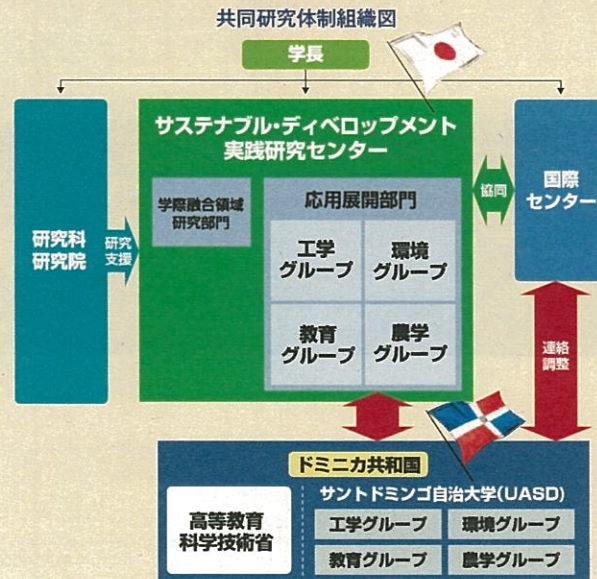
広島大学では、各分野においてSDの実現に向けた様々な研究がなされ、着実に成果を挙げた。今後の更なるブレークスルーのためには、これまでの研究成果・手法を分野横断的に統合し、国際的な広がりを持つフィールドに適用する必要がある。このために、SD実現のための分野融合型実践的研究を実施し、ドミニカ共和国などの中米カリブ海諸国を対象に相手国との協同(共同研究を含む)の元に実践に移すシステムを構築する。また、本研究を通じて国際的な視野を持った高度人材を育成する。

研究組織・体制

研究目的の実現のために、広島大学にサステナブル・ディベロップメント実践研究センターを設置する。また、関係する研究院・研究科との連携の下、同センターに複数の研究グループを置き、具体的なテーマを設けてSD実現のための実践的研究を行う。さらに、ドミニカプラチナを設置し、ドミニカ共和国サントドミンゴ自治大学および高等教育科学技術省と連携して実践的研究を行う。

サステナブル・ディベロップメント実践研究センター

持続可能な社会を構築するための諸課題を分野融合型実践的研究として実施し、ドミニカ共和国などの中米カリブ海諸国を対象に相手国と協同し(共同研究を含む)、実践に移すシステムを構築する。また、本研究を通じて国際的な視野を持った高度人材を育成する。



研究背景と取組内容

工学グループ

環境を重視した日本型ものづくり教育の実践と持続的共同研究システムの構築

技術的自立を促す持続可能なものづくりを実現するため、現地の国民性や慣習等を考慮した上で、環境重視を特性とする日本型ものづくり教育を実践する。いわば「ドミニカ流ものづくり教育」の実現のために、工学的視点のみならず、経済的・社会的・環境資源の側面も含めて学際的に研究を実現する。あわせて、両国の研究領域と大学システムの相違を踏まえた上で、両者がWIN-WINの関係となるための持続的共同研究システムを構築する。

環境グループ

水域汚染の実態把握と水環境管理システムの構築

海洋国においては水産業や観光は重要な産業であり、かつ水環境の保全は生活環境の保全にとって重要である。経済発展に伴う河川・海洋汚染が顕在化しているドミニカ共和国を対象に水環境汚染の実態を把握し、実装可能な個別浄化技術から総合的な水環境管理に至る一連の研究を行い、経済発展と環境保全を両立させる海洋国における持続可能な社会構築のシステムモデルを構築する。

教育グループ

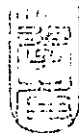
発展途上国の持続的発展を担う次世代育成システム改善に関する研究

教育分野での国際協力の重要性が言われる現在の国際社会において、教育立国に成功した日本が、その成果を世界に発信する一途として、発展途上国における次世代育成システムの改善を支援するモデル構築を図る。ドミニカ共和国をフィールドとして、教師教育の実態を調査し、その特徴と課題を分析し、提言できる改善策を考察する。

農学グループ

熱帯・亜熱帯地域における農耕地生態系の現状把握と持続可能な食料生産システムの構築

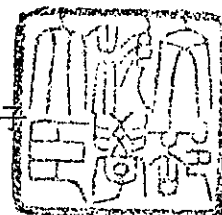
熱帯・亜熱帯地域には農作物の生産が制限されている不良土壌が広く分布している。本研究ではドミニカ共和国を対象に農耕地生態系の現状、農作物の生産・栽培状況の把握と農作物の生産を限定している要因を明らかにすることによって、持続可能な安定した食料生産システムを提言することを目的とする。



24受文科高第2945号
平成24年12月21日

国立大学法人広島大学長

文部科学大臣
田中眞紀子



平成24年度研究拠点形成費等補助金（卓越した大学院
拠点形成支援補助金）の交付決定について（通知）

さきに交付申請のありました平成24年度研究拠点形成費等補助金（卓越した大学院拠点形成支援補助金）につきましては、研究拠点形成費等補助金交付要綱（平成14年4月1日文部科学大臣決定、平成24年4月1日改正）第6条第1項の規定により、下記のとおり交付することに決定しましたので、通知します。

記

1. 補助金の交付の対象となる事業の内容は交付申請書に記載のとおりとする。
2. 補助金の交付決定額は、金 180,339,000 円とする。
3. 補助金の確定額は、補助事業に要した経費の額と補助金の交付決定額のいずれか低い額とする。
4. 補助事業者は、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）、同法施行令（昭和30年政令第255号）及び研究拠点形成費等補助金交付要綱に従わなければならない。また、その他関係法令及び指針等を遵守すること。
5. 補助条件は、前項に定めるもののほか次のとおりとする。
 - (1) 補助事業者は、補助事業の内容及び経費の配分を変更しようとするときは、あらかじめ文部科学大臣（以下「大臣」という。）の承認を受けなければならない。ただし、補助事業の目的を変えない場合で次に掲げる軽微な変更についてはこの限りではない。
 - ① 補助金の交付決定額に影響を及ぼすことなく、その変更が補助目的の達成をより効率的にする場合

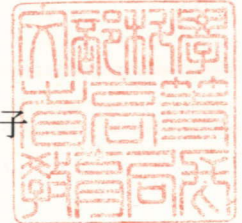
②補助金の交付決定額に影響を及ぼすことなく、各補助対象経費（物品費、人件費・謝金、旅費、その他）の額を補助金の交付決定額の50%以内で増減する場合

- (2) 補助事業者は、補助事業を中止又は廃止しようとするときは、大臣の承認を受けなければならない。
 - (3) 補助事業の実施期間は、平成25年3月31日までとする。なお、補助事業が予定の期間内に完了することができないと見込まれる場合又は補助事業の遂行が困難となった場合においては、補助事業者は速やかに大臣にその旨を届け、その指示を受けなければならない。
 - (4) 補助事業者は、補助事業を遂行するため契約を締結し支払を行う場合は、国の契約及び支払に関する規定の趣旨に従い、公正かつ最小の費用で最大の効果をあげるように経費の効率的使用に努めなければならない。
 - (5) 補助事業者は、補助事業を完了したとき又は補助金の交付の決定に係る国の会計年度が終了したときは翌年度の5月31日まで、廃止の承認を受けたときはその日から1か月を経過した日までに補助事業の経過等を記載した実績報告書を作成し、大臣に提出しなければならない。
 - (6) 補助事業者は、補助事業で得られた成果に係る特許権等の知的財産権を得た場合には、大臣に報告しなければならない。
 - (7) 補助事業者が、この補助金による成果により利益を得た場合には、その利益の範囲内において補助金の返還を命ずることがある。
 - (8) 補助事業者は、補助金により取得し、又は効用の増加した財産（以下「取得財産等」という。）については、補助事業の完了後においても、善良な管理者の注意をもって管理し、補助金交付の目的に従って、その効率的運用を図らなければならない。
 - (9) 補助事業者が、取得財産等を処分することにより、収入があり、又はあると見込まれるときは、交付した補助金の全部又は一部に相当する金額を国に納付させることがある。
 - (10) 補助事業者は、補助事業の実施に当たり、法令、通知及び各研究機関等で定めた規定等により、承認・届出・確認等が必要な場合は所定の手続を行わなければならない。
6. この交付決定の内容又はこれに付された条件に対して不服があることにより、補助金交付の申請を取り下げようとするときは、平成25年1月7日までにその旨を記載した書面を大臣に提出すること。

25文科高第109号
平成25年4月26日

「卓越した大学院拠点形成支援補助金」
採択機関設置者 殿

文部科学省高等教育局長
板 東 久 美 子



「卓越した大学院拠点形成支援補助金」（研究拠点形成費等
補助金（若手研究者養成費））の交付内定について（通知）

「卓越した大学院拠点形成支援補助金」の補助金交付内定額については、別紙のとおりとなりましたので通知します。

本補助金の取扱いについては、下記事項に留意し、また、「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）」、「研究拠点形成費等補助金交付要綱（平成14年4月1日文部科学大臣決定、平成25年4月1日改正）」、「平成25年度研究拠点形成費等補助金（若手研究者養成費）《卓越した大学院拠点形成支援補助金》取扱要領」にのっとり、遺漏のないようお願いいたします。

また、補助金交付内定額は、あくまで現時点での見通しであるとともに、各大学等からの補助金交付申請書の内容等を踏まえ、額の変更等がありうることを申し添えます。

記

- (1) 交付の内定をした補助金については、研究拠点形成費等補助金の目的・性格を踏まえ、本年度の事業実施期間を勘案し、補助金交付内定額の範囲内で交付申請書を作成し、平成25年5月24日（金）までに文部科学省高等教育局大学振興課宛てへ御提出ください。
- (2) 提出期限までに交付申請書を提出しなかった場合は、交付の内定を取り消す場合がありますので注意してください。
- (3) 本内定通知は、本補助金の平成25年度予算が成立しない場合においては失効することをあらかじめ御留意ください。

(4) 本補助事業については、平成25年4月26日より事業着手となりますので御留意願います。

《問合せ先・書類提出先》

〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2

文部科学省高等教育局大学振興課

TEL : 03-5253-4111 (内線 3317)

FAX : 03-6734-3387

Mail : daikaika@mext.go.jp

部局間協定(46カ国・地域195機関220協定)

部局名	国名	大学等名	締結年月日
総合科学部	ポーランド共和国	グダニスク大学社会科学部	1999.1.27
	アメリカ合衆国	ネバダ大学リノ校総合科学部	1999.3.8
	ドイツ連邦共和国	ハンブルク大学アジア・アフリカ研究所/東洋学部	2004.8.10
総合科学研究科	マレーシア	マレーシアプトラ大学林学部	2012.6.29
文学研究科	スイス連邦	ローザンヌ大学文学部	1999.8.23 (2004.11.24協定更新)
		首都師範大学外国語学院 同 中国詩歌研究センター	2002.2.15
	中華人民共和国	蘇州大学社会学院	2004.3.17
		北京大学歴史学系	2007.9.22
		長江師範学院	2008.6.24
		寧波大学外語学院	2008.7.24
		湖南大学外国語学院	2008.8.20
		復旦大学歴史学系	2009.3.24
		清華大学人文社会科学学院	2009.4.24
	インドネシア共和国	ガジャ・マダ大学文化研究学部	2010.3.15
		パジャジャラン大学文学部	2010.3.15
	ドイツ連邦共和国	ヴェストファーレン・ヴィルヘルム大学第8学部(歴史・哲学)	2012.3.14
	教育学部	アメリカ合衆国	ミネソタ大学教育学部
オランダ王国		アムステルダム大学教育科学部	1990.6.7
タイ王国		チュラーロンコーン大学教育学部	1992.4.30
中華人民共和国		上海体育学院	1996.6.13
ドイツ連邦共和国		ベルリン自由大学教育科学部	1998.4.30
学校教育学部	アメリカ合衆国	イースト・カロライナ大学教育学部	1991.3.11
教育学研究科	ドイツ連邦共和国	ケルン大学特殊教育学部	2004.3.20
	大韓民国	ソウル大学校師範大学	2005.5.20
	アメリカ合衆国	大阪教育大学、鳴門教育大学からなる西日本における3大学コンソーシアムとノースカロライナ大学ウィルミントン校、イーストカロライナ大学、ウエスタンカロライナ大学からなるノースカロライナ州における3大学コンソーシアム	2006.7.7
	インドネシア共和国	インドネシア教育大学	2007.3.28 (2012.11.12廃止)
			2007.3.28 (2012.11.12付属書更新)
	中華人民共和国	北京師範大学教育学院	2008.3.24
香港教育学院教育学部		2012.6.1	

[研究科長・学部長メッセージ](#)
[学部紹介](#)
[大学院紹介](#)
[教員一覧](#)
[学部・研究科要覧](#)
[教職高度化プログラム
\(博士課程前期\)](#)
[研究施設とセンター](#)
[学部・大学院入試情報](#)
[特別支援教育特別専攻科
入試情報](#)
[介護等体験](#)
[教育実習](#)
[学生への就職支援](#)
[学校図書館司書教諭講習](#)
[ベスタロッター教育賞](#)
[研究科・学部主催事業](#)
[各種証明書の請求](#)
[共催・後援・協賛名義](#)
[お問い合わせ先・交通アクセス](#)
[大学院教育学研究科・教育学部](#) > [教育学研究科附属の研究施設とセンター](#) > [附属教育実践総合センター](#)

附属教育実践総合センター

附属教育実践総合センター

教育実践を支援する

附属教育実践総合センターでは、二つの部門を設置し、学校や教育委員会などの教育・行政機関や地域と連携を図りながら、次のような活動を行っています。

▶ 1. 教育実践研究開発部門

高い専門性と優れた指導力を持つ教員を養成するための教育事業や研究・カリキュラム開発を行っています。子どもとかかわるボランティア活動に対して学生を派遣し、社会貢献の一翼を担うとともに、学生の教員としての資質向上に努めています。また、学校の実践研究に対するコンサルテーションも行っています。

▶ 2. 学校教育相談実践部門

いじめ、不登校、学習のつまずきといった現在の学校教育が抱える問題を解決・予防するための研究や、相談・支援活動を行っています。平成18年度から、学校心理教育相談室（にこにこルーム）を設置し、学習や生徒指導・研究相談にかかわる心理教育的支援、学校心理学に関する教育・研究を行うとともに、学校心理学に関する研修の機会を提供しています。

なお、教員養成の専門的高度化及び学部教員養成の充実を図るため、実践的な教育・研究に従事する実務家教員も特別に配置されています。

➡ センターのオリジナルページはこちら

お問い合わせ先

〒739-8524

東広島市鏡山一丁目1番1号

TEL & FAX : 082-424-7195




[研究科長・学部長メッセージ](#)
[学部紹介](#)
[大学院紹介](#)
[教員一覧](#)
[学部・研究科要覧](#)
[教職高度化プログラム
\(博士課程前期\)](#)
[研究施設とセンター](#)
[学部・大学院入試情報](#)
[特別支援教育特別専攻科
入試情報](#)
[介護等体験](#)
[教育実習](#)
[学生への就職支援](#)
[学校図書館司書教諭講習](#)
[ベストロッシー教育賞](#)
[研究科・学部主催事業](#)
[各種証明書の請求](#)
[共催・後援・協賛名義](#)
[お問い合わせ先・交通アクセス](#)
[大学院教育学研究科・教育学部](#) > [教育学研究科附属の研究施設とセンター](#) > [附属特別支援教育実践センター](#)

附属特別支援教育実践センター

附属特別支援教育実践センター

障害のある児童・生徒たちのニーズに応じた実践方法を学ぼう!

附属特別支援教育実践センターは、特別支援教育についての基礎的・実践的な研究や教材開発を行うことや、教育相談・臨床、特別支援教育を専攻する学生への臨床指導、現職教員などへの研修を行うこと、そして関係機関と連携しながら地域の教育・福祉に寄与することを目的として設置されています。本センターの主な事業は次のとおりです。

- ▶ 1. 障害児(者)の教育に関する相談、助言及び障害児(者)に対する教育的支援
- ▶ 2. 学生への特別支援教育分野に関する実践的教育
- ▶ 3. 現職の教師、指導者への研修
- ▶ 4. 障害児(者)の教育的支援及び支援にかかわる諸問題についての調査及び研究

特別支援教育学講座のスタッフとの協力の下に、教育相談が進められています。また、本センターは学生等への実践教育の場として大きな役割を果たしています。

➡ センターのオリジナルページはこちら

お問い合わせ先

〒739-8524

東広島市鏡山一丁目1番1号

TEL & FAX : 082-422-7106

(事務担当者につながります。直接の相談電話番号ではございませんので、ご注意ください。)



[研究科長・学部長メッセージ](#)[学部紹介](#)[大学院紹介](#)[教員一覧](#)[学部・研究科要覧](#)[教職高度化プログラム
\(博士課程前期\)](#)[研究施設とセンター](#)[学部・大学院入試情報](#)[特別支援教育特別専攻科
入試情報](#)[介護等体験](#)[教育実習](#)[学生への就職支援](#)[学校図書館司書教諭講習](#)[ベスタロッター教育賞](#)[研究科・学部主催事業](#)[各種証明書の請求](#)[共催・後援・協賛名義](#)[お問い合わせ先・交通アクセス](#)[大学院教育学研究科・教育学部](#) > [教育学研究科附属の研究施設とセンター](#) > [附属心理臨床教育研究センター](#)

附属心理臨床教育研究センター

附属心理臨床教育研究センター

心理臨床の研究推進と専門家教育を支援する

附属心理臨床教育研究センターは、平成14年度に心理臨床に関わる教育研究のための省令施設として設置されました。

その目的は、

- ▶ 1. 大学院生の心理臨床の実習・訓練という教育機能
- ▶ 2. 高度な心理臨床研究の推進
- ▶ 3. 社会で活躍する心理臨床家の再教育機能
- ▶ 4. 学校・家庭・職場等で心のケアを必要とする人たちにを行う心理相談サービス機能

特に教育学研究科博士課程前期心理学専攻は、(財)日本臨床心理士資格認定協会認定の臨床心理士養成第1種指定大学院であり、本センターは臨床心理士養成のための心理臨床実習の場を提供しています。また、センターの心理教育相談部門では、相談員による面接等の心理相談活動を有料で行っており、研究科としての地域社会貢献活動の一端を担っています。

➡ [センターのオリジナルページはこちら](#)

お問い合わせ先

〒739-8524

東広島市鏡山一丁目1番1号

TEL : 082-424-6779




[研究科長・学部長メッセージ](#)
[学部紹介](#)
[大学院紹介](#)
[教員一覧](#)
[学部・研究科要覧](#)
[教職高度化プログラム
\(博士課程前期\)](#)
[研究施設とセンター](#)
[学部・大学院入試情報](#)
[特別支援教育特別専攻科
入試情報](#)
[介護等体験](#)
[教育実習](#)
[学生への就職支援](#)
[学校図書館司書教諭講習](#)
[ペスタロッパー教育賞](#)
[研究科・学部主催事業](#)
[各種証明書の請求](#)
[共催・後援・協賛名義](#)
[お問い合わせ先・交通アクセス](#)
[大学院教育学研究科・教育学部](#) > [教育学研究科附属の研究施設とセンター](#) > 附属幼年教育研究施設

附属幼年教育研究施設

附属幼年教育研究施設

幼年期の子どもを総合的に研究し、保育実践を支援する

附属幼年教育施設は、幼児教育についての総合的な研究を推進することを目的として、昭和41年7月に設置されました。

施設は幼児教育学部門と幼児心理学部門との二つの部門からなり、幼年期の教育と養護の改善に寄与することを目的に、幼児の心身の発達と教育に関する理論的・実証的な研究を行っています。附属幼稚園との共同研究を行っていることも、本施設の研究活動の特徴の一つです。

本施設の主な活動としては、次のようなものがあります。

- 保幼小連携に関する研究
- 子育て支援に関する研究
- 保育者の専門性に関する研究
- 講演会、シンポジウムの開催
- 研究会やセミナーの開催
- 地域連携、社会貢献活動

➡ [施設のオリジナルページはこちら](#)

お問い合わせ先

〒739-8524

東広島市鏡山一丁目1番1号

TEL : 082-424-4388

FAX : 082-424-5261



第22回 ペスタロッチー教育賞

— 受賞候補者のご推薦を —

広島大学大学院教育学研究科では、平成4年、ペスタロッチー教育賞を創設し、今日極めて困難な我が国の教育状況の中で、優れた教育実践をおこなっている個人あるいは団体を顕彰しています。

このたび、第22回の本賞にふさわしい個人又は団体のご推薦を、広く、教育に関心を寄せる方々をお願いすることにいたしました。ご推薦の程、よろしくお願いいたします。

平成25年5月

広島大学大学院教育学研究科

ペスタロッチー教育賞実行委員会

実行委員（五十音順）

広島大学長（委員長） 浅原 利正

広島大学名誉教授 小笠原 道雄

中国新聞社代表取締役社長 岡谷 義則

もみじ銀行頭取 野坂 文雄

広島大学大学院教育学研究科長 宮谷 真人

慶應義塾大学名誉教授 村井 実

受賞対象 ペスタロッチー精神ないしペスタロッチー教育に通ずる活動をしている個人又は団体。当面、受賞対象は1名又は1団体とする。

選考方法 推薦による。推薦された個人、団体を教育学研究科内ペスタロッチー委員会で検討し、受賞候補者数名を選定の上、ペスタロッチー教育賞実行委員会で決定する。
（「実践報告」、「論文」などの提出をお願いすることもあります。）

推薦方法 推薦者は、所定の推薦書により、候補者1名又は1団体を推薦する。
（なお、推薦書は下記照会先へ文書にてご請求ください。）

推薦期限 平成25年8月30日（金）（必着）

表彰 表彰状及びペスタロッチーの胸像複製1基
副賞として、20万円

受賞発表 平成25年10月 後日、表彰式及び記念講演会を開催する。

照会先 〒739-8524 広島県東広島市鏡山一丁目1番1号
広島大学大学院教育学研究科内 ペスタロッチー委員会
TEL 082-424-4610（教育学講座）
082-424-5605（教育学研究科運営支援グループ（総務・人事担当））
FAX 082-424-3478（教育学研究科運営支援グループ）

URL <http://www.hiroshima-u.ac.jp/ed/pestalozzi/index.html>

< 付 記 >

- 第 1 回受賞者 宮 城 まり子 学校法人ねむの木学園理事長，ねむの木養護学校長
- 第 2 回受賞者 谷 昌 恒 社会福祉法人北海道家庭学校長
- 第 3 回受賞者 児 玉 三 夫 学校法人明星学苑理事長，明星大学長，明星小学校長
- 第 4 回受賞者 山 田 洋 次 映画監督
- 第 5 回受賞者 NHK名古屋放送局「中学生日記」制作スタッフ
- 第 6 回受賞者 本 吉 修 二 学校法人白根開善学校長
- 第 7 回受賞者 黒 柳 徹 子 ユニセフ親善大使
- 第 8 回受賞者 社会福祉法人 広島新生学園
- 第 9 回受賞者 丸 木 政 臣 学校法人和光学園長
- 第 10 回受賞者 佐 野 浅 夫 俳 優
- 第 11 回受賞者 社会福祉法人 似島学園
- 第 12 回受賞者 九 里 茂 三 学校法人九里学園長
- 第 13 回受賞者 中 野 光 日本生活教育連盟委員長，日本子どもを守る会会長
- 第 14 回受賞者 アグネス・チャン 日本ユニセフ協会大使
- 第 15 回受賞者 津 守 真 学校法人愛育学園理事長
- 第 16 回受賞者 鼻 地 三 郎 社会福祉法人しいのみ学園園長
- 第 17 回受賞者 松 田 實 ネパール学校建設支援協会 In ひろしま代表
- 第 18 回受賞者 西 谷 英 雄 学校法人光の村学園 理事長・学園長
- 第 19 回受賞者 金 森 俊 朗 北陸学院大学人間総合学部教授
- 第 20 回受賞者 〈教育賞〉高 谷 清 重症心身障害児施設びわこ学園 小児科医師
〈特別賞〉あしなが育英会
- 第 21 回受賞者 一般社団法人 「実践人の家」

65 __広島大学__社会分野__追加資料（データ）

1. ミッション再定義（社会科学分野）説明資料
2. 志願者及び入学者の主要な出身高校所在地における平成39年度（第4期中期目標期間終了時）までの18歳人口の動態イメージ
3. 入試の状況
4. 在学の状況
5. 在学の状況（2）
6. 進路の状況（1）
7. 進路の状況（2）
8. 学部単位の入学者（出身県別）状況【過去2年】
9. 進路の状況（3） 【平成23年度】
10. 進路の状況（3） 【平成24年度】

ミッション再定義（人文科学分野）説明資料

【教育】

○学生が身につける能力

広島大学教育学部・教育学研究科の最大の特色は、人間形成に関するあらゆる領域の教育とその研究を覆う総合的な学部・研究科であることである。すなわち、幼、小、中、高、特別支援のあらゆる学校段階、あらゆる教科の教員養成の実践と、人間形成に関する広範な研究の両機能を併せ持つという特徴を持っている。このような特徴を踏まえ、教育学部・教育学研究科では、学生が以下の能力を身につけるための教育を行っている。

【教育学部】

5つの類、15のコースそれぞれで到達目標型教育プログラムを提供している。教員の計画養成を目的とする2プログラム以外のディプロマポリシーは、以下の通りである。
○中等教育科学プログラム（理科、数学、技術・情報、社会・地理歴史・公民、国語、英語の6プログラム）：これらのプログラムでは、中・高等学校教員の養成を主目的としつつ、企業や公共団体などにおける教育専門職、大学院に進学して研究者や高度専門職業人を目指す人材を育成する。学生には、次の3つの能力を身につけさせる。①中等教育の原理・方法に関わる専門的知識・技能と教育実践力、②教科内容に関する専門的知識に基づいて、教材分析や教材開発、教育実践を行う能力、③各教科の視点から人類や社会に関わる課題を発見、考察、探求、解決していく能力。（資料1-1）

○日本語教育プログラム：日本語を外国語として教える日本語教員、日本語・日本文化について国際社会で説明できる知識と語学力、先入観にとらわれない真の国際感覚と独創性を備え、これからの地域社会で幅広く活躍できる人材を養成する。学生には、次の3つの能力を身につけさせる。①日本語教育に関連する基本的な認識を形成し、研究に発展させる能力、②優れた日本語教育実践を行う能力、③国際的な視野を持ち学際的な思考を行う能力。（資料1-2）

○健康スポーツ教育プログラム、人間生活教育プログラム、音楽文化教育プログラム、造形芸術教育プログラム：中・高等学校の教員をはじめ、企業や公共団体における教育専門職、生涯教育の現場における指導者、大学院に進学して研究者や高度専門職業人をを目指す人材を養成する。学生には、次の3つの能力を身につけさせる。①各領域における指導・学習方法に関する専門的知識・技能に基づく教育実践力、②各領域における専門的知識・技能に基づく実践的研究能力、③各領域の視点から人類や社会の課題について考察・探究する能力。（資料1-3）

○教育学プログラム：教育に関する高い識見と総合的な判断力を持ち、大学院へ進学するほか、教職、教育行政職（公務員）、教育分野での国際的な開発協力実践家など、教育学の専門性を活かせる各種分野で活躍する人材を育成する。学生には、次の4つの能力を身につけさせる。①教育関連諸科学の諸概念や理論を理解し、人間形成の視点からこれらを総合する能力、②外国語の運用、統計分析、観察法、情報処理など、教育学の研究手法を用いる能力、③具体的な教育課題に対して、情報収集力や研究手法を応用し、分析的・批判的に判断する能力、④研究開発・問題解決・政策立案など、教育に関する研究・実践を発展的に継続する能力。（資料1-4）

○心理学プログラム：人間の心や行動に関連した様々な問題に対応するため、心の仕組みや働きについてよく理解し、人間の心や行動に関する問題を発見することができ、それを解決することのできる人材の育成を目指す。学生には、次の4つの能力を身につけさせる。①人間の認識や情報処理の仕組み、人間関係や社会の中で生きる人間、人間の学習や教育、心の成長のプロセス、心の悩みや適応への援助の仕方、脳や身体と心の関係などに関して多様な知識を持ち、心の仕組みや働きを理解する能力、②心の測定法やデータの収集・分析などの方法を習得し、論理的に考え合理的に判断する能力、③これ

らの方法・技能を、研究活動として実践し、研究の過程や成果を表現したり、さまざまな他者と情報を交換したりする能力、④人間に関する知の蓄積に立脚し、事実に基づきながら新たな知を探求する能力。(資料1-5)

【教育学研究科】(資料1-6)

博士課程前期の8専攻においては、以下の各領域における専門的な知識やスキルとともに、さまざまな教育的諸課題に取り組み、解決するための実践能力、研究能力を身につける。博士課程後期の3専攻においては、各領域におけるさらに高度な知識・スキル・実践能力・研究能力とともに、教育的諸課題を解決し人類の未来を切り拓くためにそれらを活用する能力を身につける。

○学習科学専攻(前期)、学習開発専攻(後期):生涯学習社会における「学び」の問題について、既存の学問領域にとらわれず、理論的研究と小・中学校等における実践に意欲的に取り組む能力。生涯学習社会にふさわしい学習の価値及びメカニズム、学習者の視点に立つ学習方法及び学習支援方法、初等教育を中心とした学習指導方法及びカリキュラム等の教育研究能力。

○特別支援教育学専攻(前期)、学習開発専攻(後期):障害のある児童等の教育・研究に関する強い情熱。子どもを的確に捉える視点と温かく見つめる共感性及び多様な障害に対応できる豊かな人間性。複雑化・多様化する社会の中で活躍できる特別支援教育の専門家になるための、特別支援教育学、障害児心理学、障害児・者の社会的自立を促すための教育方法、教材及びカリキュラム等の教育研究能力。

○科学文化教育学専攻(前期)、文化教育開発専攻(後期):中等教育、高等教育、生涯学習等の場において、科学文化教育に先導的な役割を果たし得る幅広い学識と専門性を有する研究者・教育者になるための、自然科学、数学、技術・情報科学、人文・社会科学等の幅広い科学領域における科学認識能力の形成過程、諸科学諸文化の質的向上に資する教授・学習の原理、方法及び内容開発等に関する教育研究能力及び教育実践力。

○言語文化教育学専攻(前期)、文化教育開発専攻(後期):中等教育、高等教育、国内外における日本語教育、生涯学習等の場において、言語文化教育に先導的な役割を果たし得る幅広い学識と専門性を有する研究者・教育者になるための、国語、第二言語としての日本語及び国際言語である英語について、言語認識・活用能力の形成過程及び論理、言語文化の形成・変容過程、言語文化の質的向上に資する教授・学習の原理、方法及び内容開発等に関する教育研究能力。

○生涯活動教育学専攻(前期)、文化教育開発専攻(後期):中等教育、高等教育、生涯学習等の場において、生涯活動教育に先導的な役割を果たし得る幅広い学識と専門性を有する研究者・教育者になるための、人間の生涯にわたる活動を豊かにする健康とスポーツ、人間生活、音楽文化、造形芸術等の諸活動に関する教授・学習の原理、方法及び内容開発等の教育研究能力。

○教育学専攻(前期)、教育人間科学専攻(後期):これからの教育界を先導し、時代を切り拓く教育を創造できる高度な識見と総合的な判断力。教育の理念・思想、歴史、方法、内容、経営、政策、制度等の観点又は社会学的、国際比較的な視点から、教育に関するさまざまな事象及び諸課題についての教育研究を推進する資質。

○心理学専攻(前期)、教育人間科学専攻(後期):認知、学習、社会、教育、発達、臨床、幼児等の心理学各領域の多様な視点から人間の行動とその心理過程に科学的にアプローチし、現代社会における人間の「こころ」に関する課題を認識し、それらを解決するための資質。

○高等教育開発専攻(前期)、教育人間科学専攻(後期):大学のあり方及び大学改革についての関心。大学研究又は大学運営の実践に意欲的に取り組む高等教育に関する専門家又は大学運営の実務家として必要な、高等教育の政策形成、運営及び行政、国際比較研究、歴史研究及び授業開発、高等教育機関の中等教育及び社会との接続、大学教職員の市場、教授能力開発等に関する研究能力及び実践能力。

○目標とする能力を身につけるための組織としての取り組み

【教育学部】

広島大学では、平成18年度に、学生が身につけるべき知識や能力を示し、学生一人ひとりの到達度に応じたきめ細かい学習サポートを実現し、教育の質を向上させる目的で、到達目標型教育プログラムを開始した。教育学部においても、全教育プログラムにおいて、到達目標と学習の成果（具体的に身につく知識・技能・態度）を明示している。さらに、身につく知識・技能・態度等について、「知識・理解」「知的能力・技能」「実践的能力・技能」「総合的能力・技能」の4つの側面が具体的にカリキュラム内のどの授業で身につくのかといった、プログラム全体の構造を提示することにより、各講義・演習等の意義が学生に理解しやすいよう工夫している。また、各教育プログラムで担当教員会を組織し、学生の学習支援環境を整備するとともに、毎年行うプログラムの自己点検とその改善に関わるPDCAサイクルにより（資料2-1）、実施責任が明瞭な体制のもとでプログラムを遂行している。

【教育学研究科】

大学院課程においても、学士課程と同様、毎年プログラムの自己点検を行い、その結果と改善計画を報告書としてまとめ（資料2-2）、教育プログラムに関するPDCAサイクルが機能するように工夫している。

本研究科は、大学教員の養成、なかでも教育系学部等において「先生の先生」として教鞭をとる教職課程担当教員の育成を目的の一つとしており、それに対応する授業として博士課程後期の全専攻において、「教職授業プラクティカム」（資料2-3）を開講している。これは、平成19年度文部科学省大学院教育改革支援プログラムに採択された「Ed.D型大学院プログラムの開発と実践」（～平成22年度）（資料2-4）の成果に基づくもので、具体的には、博士課程後期学生に、教職科目の授業シラバスを作成させ、本学教育学部や他大学における関連授業でTAとして教育実習を体験させ、その授業実践を反省・評価させるというサイクルを繰り返すことにより、教職課程担当教員としての自覚を高め、その資質・能力の向上を目指すものである。

○学生が身につける能力やそれに向けた取り組みに関する活動成果

教育学部が提供する主専攻プログラムのうち、7つのプログラムで平成20～23年度に1回以上外部関係者によるプログラム評価を実施しており（聴き取り調査を含む）、その結果をプログラムの改善に役立てている。（資料3）一方で、6つのプログラムでは未実施であり、また大学院に関して教育課程に関する評価を適切に受けているとはいえないことから、今後、学部・研究科として包括的な評価を実施する予定である。

○目標とする能力を身につけるための組織としての今後の方針

教員養成分野におけるミッションの再定義に基づき（資料4-1）、平成28年度に教職大学院（高度教職実践専攻（仮称））を設置する準備を進めている。また、これまでの教員養成・人材養成の実績を踏まえた、初等・中等教育のグローバル化に対応できる人材を育成するための教育システム（学部・大学院の両方）の構築について、ワーキンググループによる検討を行っている。これらの改革に伴い、最善の教育を提供するための教員組織の再編についても検討する。（資料4-2）

○入試・在学状況の分析

【教育学部】（資料5）

平成25年度の志願倍率は教育学部全体で3倍であり、5年前とほぼ同じである。また、辞退率は2%台、定員充足率は108%前後で推移しており、ここ5年間で大きな変化は見られない。類別にみると第三類の志願倍率が平成25年度で2倍を切っている

が、志願倍率は前年の合格状況によって大きく左右される場合があるので、今後の推移を注視したい。

【教育学研究科】（資料5）

博士課程前期においては、志願倍率がこの5年間で2.2倍から1.8倍へと若干低下傾向にある。それに応じて、定員充足率も120%から115%へとやや低下している。大学院の志願者は、教員の採用状況や経済状況等による就職状況の変化の影響を受けやすく、今後もこの傾向が続くかどうか、注視する必要がある。なお、辞退者数については、大きな変化はない。

博士課程後期においては、志願倍率については年度により多少の増減はあるもののほぼ一定しており、辞退者はここ3年間出ていない。定員充足率も150%前後で安定して推移している。

○修了者の進路の状況の分析

【教育学部】

第二類～第四類の卒業生の進路で、割合の大きいのは中・高等学校の教員と大学院への進学である。また、第五類では教職に就くものは少なく、大学院への進学の割合が最も大きい（資料6-1）。これらは、各教育プログラムが育成を目指す人材像と一致している。進学も就職もしていない者の割合は、大学院の再試験や就職の準備中の者を除いて、ここ5年間、3%以下である。（資料6-2）

【教育学研究科】

ここ5年間の博士課程前期修了者のうち、進学した者が11%～20%、就職した者が64%～69%である。就職した者のうち、約60%が教員（資料6-3）、20%強が現職教員への復帰（資料6-4）や臨床心理士等の高度専門職業人となっている。また、博士課程後期修了者の就職率は73%～91%であり、職業別にみるとほとんどが大学教員または研究者、産業別にみるとほぼ全員が学習支援・教育領域である。これらの状況は、教育学研究科の人材育成方針と一致しているものと言える。ただし、課程博士の学位授与数がやや低下する傾向が見られる。（資料6-5）学位授与率には一定の傾向が見られないことから、入学者数の減少が原因であると考えられ、今後、前期修了者の進学率増など、優秀な入学者の確保が課題となる。

【研究】

○組織的に取り組んでいる研究面での強み・特色

教育学部・教育学研究科における研究の特色は、教育学、心理学、教科教育学等、人間形成に関わる広範囲な領域の研究を行ってきたことである。特に、近年注目されている「教職と教科の架橋」すなわち人間形成の理論と教科の内容との結合について、教科教育学の確立・発展の中核として全国の拠点機能を果たしてきた。さらに、教員養成の実践も担うという学部・研究科の特徴から、教員養成あるいは学校教育の理論的根拠となる学問的背景の確立に主導的役割を果たし、その成果を附属学校等と連携して学生教育に反映させてきた。学校教育のみならず人間生活全般に関わる広範な教育関連領域における研究者養成を行い、現在、教育学研究科を修了もしくは退学して大学教員として在職しているものは、日本全国で約1,230名にのぼる（資料7）（ほかに外国の大学に在職する研究者が約80名）。これらの研究者のうち、約830名が日本各地の大学の教員養成系の部署で教育・研究に従事しており、今後一層求められる質の高い大学教員養成のための研究・実践に関して全国の拠点の一つとなっている。

○研究面での強み、特色を強化するための組織体制方針

教育学研究は、特定の領域の個々の優れた研究のみで発展するわけではなく、教育学、

心理学、教科教育学などの教育関連諸科学が連携・協働して真の成果が挙がるものである。本研究科には、言語科学領域、生涯活動領域などにも、基盤研究Aの研究代表者がおり（資料8-1）、これらの諸領域全体の研究力をさらに向上させることによって、本研究科の研究面での強み・特色が強化される。具体的には、研究科内外の領域横断的共同研究プロジェクトをさらに推進するために、新たな研究グループを形成しやすくするための予算や研究設備の優先的配分を行う。（資料8-2）

○研究面での強み、特色などの成果

大学院博士課程における研究者養成実績と教員の研究実績が認められ、平成24年度および平成25年度の「卓越した大学院拠点形成支援補助金」（資料9-1）の交付を受け、さらなる研究環境の充実に結び付いた。また、教育学、心理学、教科教育学等の実践的研究の成果は、平成22年度から毎年開催する「高等学校教員のための指導力向上セミナー」（資料9-2）において、全国の高校教員の資質向上に還元している。さらに、教員養成のモデルカリキュラムの開発、教材開発や授業の質的向上のための研究成果は、日本国内のみならず外国との連携にも発展している。アジア諸国の研究者と協働した「日中韓における教員資質向上のための国際共同研究—授業研究方法論の比較研究シンポジウム—（平成22年度）」や「授業研究による数学及び理科教師の能力の向上に関する東アジア4カ国国際会議—PISA型リテラシーの育成を目指す授業の分析を通して—（資料9-3）（平成23年度）」などに結実するとともに、ドミニカ共和国高等教育科学技術省の依頼を受け、平成22年度から唯一の国立大学であるサントドミンゴ自治大学の教員養成改革を支援するプロジェクト（資料9-4）を展開するなど、世界を視野にいたした教育・研究の一層の充実・発信を図っている。

○研究面での強み、特色を強化するための今後の方針

全国における研究拠点となりうる領域、例えば「教職と教科を架橋する」教科教育学の研究力強化を図るとともに、専門領域や所属講座を横断する共同研究やプロジェクトをさらに推進することによって必要に応じて柔軟に研究グループを形成し、教育実践と密接に連携する教育研究を推進する。また、平成24～25年度に交付を受けた「卓越した大学院拠点形成支援補助金」（資料10-1）によって整備された環境を生かすこと、連携協定を結ぶ国外の大学との連携を深めること（資料10-2）、さらには現在構想中のグローバル化対応人材養成プログラムの準備と連携して外国人教員を雇用することなどにより、学生・教員ともに研究成果の国際発信を推進するための体制を整備する。

【社会貢献】

大学院教育学研究科附属の「教育実践総合センター」「特別支援教育実践センター」「心理臨床教育研究センター」「幼年教育研究施設」（資料11-1）では、学習に困難を感じる子ども、障害児・者、学校・家庭・職場等で心のケアを必要とする人たちに対する相談、心理教育的援助を行うとともに、保育者、現職教員、心理臨床家に対する研修・再教育の機会を提供している。これらの活動は、それに参加する学生の資質・能力の向上、研究成果の還元・発信のための重要な役割を果たしており、今後も教育・研究・社会貢献それぞれの機能と連携を強化する。

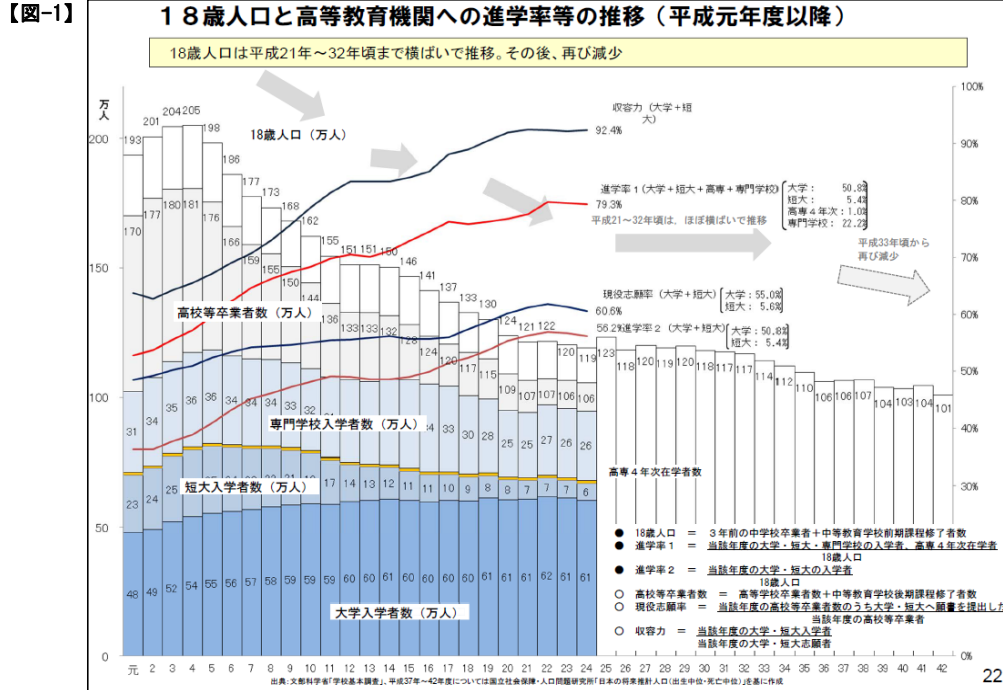
また、平成4年にペスタロッチー教育賞を創設し（資料11-2）、困難な教育状況の中で優れた教育実践を行っている個人あるいは団体を顕彰することにより、20年以上に渡り、一般の目には触れにくい教育の価値や意義に光を当てる活動に取り組んでいる。

志願者及び入学者の主要な出身高校所在地における平成39年度(第4期中期目標期間終了時)までの18歳人口の動態イメージ

※大学単位でご提出ください。(分野ごとの作成は不要です。)

(広島大学)

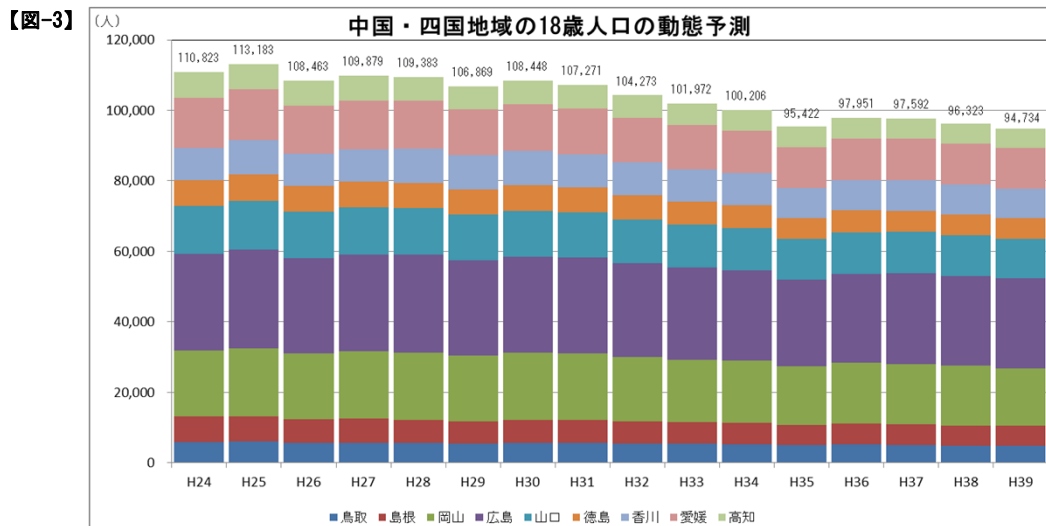
- 全国の状況は、図-1のとおり予測されている。
- 主要な地域は、志願者数・入学者数の占める割合が高い中国・四国地域を想定。(図-2参照)
- 主要な地域の18歳人口の動態は、図-3のとおり、全国の動態と同様に減少(平成24年度:約11万人→平成39年度:約9.5万人)が予測される。



※ グラフは、産業競争力会議 (H25. 3. 15) に文部科学大臣が提出された資料を添付。

【図-2】

区分		北海道	東北	関東・甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州	その他	計
平成22～25年度 学部志願者	人数	147	116	1,197	2,241	4,573	17,303	6,958	369	32,904
	割合	0.4%	0.4%	3.6%	6.8%	13.9%	52.6%	21.1%	1.1%	100.0%
平成22～25年度 学部入学者	人数	40	26	194	622	1,212	5,561	2,213	102	9,970
	割合	0.4%	0.3%	1.9%	6.2%	12.2%	55.8%	22.2%	1.0%	100.0%



※ (平成24～27年度) 18歳人口=3年前の中学校卒業生+中等教育学校前期課程修了者数(文部科学省の18歳人口の計算方法)

※ (平成28～39年度) 人口動態統計(厚生労働省)による、都道府県別の年次別出生数から乳児死亡(生後1年未満の死亡)数を引いた数による。

※ 「3年前の中学校卒業生」及び「中等教育学校前期課程修了者数」は、学校基本調査による。

注1. 枠内に考え方やデータ等を記載してください。

注2. 主要な地域が特段ない(全国に渡る)場合には、その旨記入ください(作成不要です)。

(大学院大学については、18歳の人口動向の作成は不要です(必要に応じて、22歳人口の動向を作成ください。))

注3. 動態イメージには自然増減を加味しなくても構いません。

入試の状況

(広島大学)

学士課程		平成15年度(10年前)						平成20年度(5年前)						平成23年度						平成24年度						平成25年度						
学部	分野	学科・課程	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率
教育学部	社会	第一類(学校教育系)	180	452	190	188	2.5倍	1.1%	180	531	187	185	3.0倍	1.1%	180	575	191	186	3.2倍	2.6%	180	448	191	190	2.5倍	0.5%	180	546	193	189	3.0倍	2.1%
		第二類(科学文化教育系)	88	232	102	99	2.6倍	2.9%	88	277	104	98	3.1倍	5.8%	88	326	98	97	3.7倍	1.0%	88	297	100	97	3.4倍	3.0%	88	258	101	96	2.9倍	5.0%
		第三類(言語文化教育系)	84	266	93	92	3.2倍	1.1%	84	237	90	90	2.8倍	0.0%	84	169	89	88	2.0倍	1.1%	84	197	91	88	2.3倍	3.3%	84	151	89	89	1.8倍	0.0%
		第四類(生涯活動教育系)	88	298	103	100	3.4倍	2.9%	88	292	103	96	3.3倍	6.8%	88	327	97	94	3.7倍	3.1%	88	281	100	96	3.2倍	4.0%	88	294	95	95	3.3倍	0.0%
		第五類(人間形成基礎系)	55	198	64	58	3.6倍	9.4%	55	179	61	61	3.3倍	0.0%	55	224	61	60	4.1倍	1.6%	55	168	59	58	3.1倍	1.7%	55	265	60	58	4.8倍	3.3%
合計			495	1,446	552	537	2.9倍	2.7%	495	1,516	545	530	3.1倍	2.8%	495	1,621	536	525	3.3倍	2.1%	495	1,391	541	529	2.8倍	2.2%	495	1,514	538	527	3.1倍	2.0%

博士課程前期		平成21年度						平成22年度						平成23年度						平成24年度						平成25年度						
研究科	分野	専攻	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率
教育学研究科	社会	学習科学専攻	19	40	22	22	2.1倍	0.0%	19	40	30	28	2.1倍	6.7%	19	42	26	23	2.2倍	11.5%	19	28	23	20	1.5倍	13.0%	19	38	26	26	2.0倍	0.0%
		特別支援教育学専攻	5	14	5	5	2.8倍	0.0%	5	6	2	2	1.2倍	0.0%	5	7	6	6	1.4倍	0.0%	5	5	5	4	1.0倍	20.0%	5	6	5	4	1.2倍	20.0%
		科学文化教育学専攻	35	71	48	43	2.0倍	10.4%	35	73	47	41	2.1倍	12.8%	35	78	47	41	2.2倍	12.8%	35	55	41	39	1.6倍	4.9%	35	51	41	38	1.5倍	7.3%
		言語文化教育学専攻	34	83	42	39	2.4倍	7.1%	34	68	40	38	2.0倍	5.0%	34	60	39	38	1.8倍	2.6%	34	71	37	35	2.1倍	5.4%	34	56	35	33	1.6倍	5.7%
		生涯活動教育学専攻	25	44	32	30	1.8倍	6.3%	25	44	36	34	1.8倍	5.6%	25	43	32	31	1.7倍	3.1%	25	40	32	29	1.6倍	9.4%	25	32	27	26	1.3倍	3.7%
		教育学専攻	15	27	20	19	1.8倍	5.0%	15	24	15	15	1.6倍	0.0%	15	27	20	17	1.8倍	15.0%	15	35	22	21	2.3倍	4.5%	15	24	17	16	1.6倍	5.9%
		心理学専攻	19	66	27	22	3.5倍	18.5%	19	62	25	20	3.3倍	20.0%	19	51	26	24	2.7倍	7.7%	19	53	24	21	2.8倍	12.5%	19	68	25	24	3.6倍	4.0%
高等教育開発専攻	5	6	6	5	1.2倍	16.7%	5	5	5	5	1.0倍	0.0%	5	2	2	2	0.4倍	0.0%	5	5	5	5	1.0倍	0.0%	5	3	3	3	0.6倍	0.0%		
合計			157	351	202	185	2.2倍	8.4%	157	322	200	183	2.1倍	8.5%	157	310	198	182	2.0倍	8.1%	157	292	189	174	1.9倍	7.9%	157	278	179	170	1.8倍	5.0%

博士課程後期		平成21年度						平成22年度						平成23年度						平成24年度						平成25年度						
研究科	分野	専攻	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	入学辞退率
教育学研究科	社会	学習開発専攻	9	14	13	13	1.6倍	0.0%	9	12	10	9	1.3倍	10.0%	9	6	6	6	0.7倍	0.0%	9	11	10	10	1.2倍	0.0%	9	9	9	9	1.0倍	0.0%
		文化教育開発専攻	22	26	21	20	1.2倍	4.8%	22	36	28	27	1.6倍	3.6%	22	26	21	21	1.2倍	0.0%	22	34	28	28	1.5倍	0.0%	22	40	33	33	1.8倍	0.0%
		教育人間科学専攻	18	30	26	26	1.7倍	0.0%	18	20	17	16	1.1倍	5.9%	18	22	20	20	1.2倍	0.0%	18	18	13	13	1.0倍	0.0%	18	24	21	21	1.3倍	0.0%
合計			49	70	60	59	1.4倍	1.7%	49	68	55	52	1.4倍	5.5%	49	54	47	47	1.1倍	0.0%	49	63	51	51	1.3倍	0.0%	49	73	63	63	1.5倍	0.0%

注1. 「平成25年度」の場合は、平成25年度の入学者に関するデータとなりますので、「志願者」は平成24年度に実施された入学試験における実績をさします。

ただし、秋入学で入学定員を定めている場合は、当該年度に含めてください。(平成25年度の秋入学は当該年度の数には含めないことといたします。)

注2. 学科単位で入試を行っていない場合は、実施している単位(学部単位・○類単位など)でかまいません。

注3. 編入学、再入学者を含みます。

注4. 秋入学を実施している場合で入学定員を別に定めている場合は、専攻欄に(秋入学)と付記してください。

(なお、入学定員を若干名としている場合は、集計に含めないことといたします。)

注5. 学部・学科単位以外での入試を行っている場合は、その旨記載してください。

注6. 学部、学科・課程等の名称については、平成25年度現在の組織名とし、母体となる旧組織がある場合は、名称を()書きしてください。

在学の状況

(広島大学)

学士課程			平成21年度					平成22年度					平成23年度					平成24年度					平成25年度				
学部	分野	学科・課程	収容定員	在学者数	留年者数	退学者数	退学率	収容定員	在学者数	留年者数	退学者数	退学率	収容定員	在学者数	留年者数	退学者数	退学率	収容定員	在学者数	留年者数	退学者数	退学率	収容定員	在学者数	留年者数	退学者数	退学率
教育学部	社会	第一類(学校教育系)	720	745	11	1	0.1%	720	759	13	2	0.3%	720	756	6	4	0.5%	720	763	11	8	1.0%	720	766	10	0	0.0%
		第二類(科学文化教育系)	352	406	20	2	0.5%	352	391	13	3	0.8%	352	391	7	1	0.3%	352	393	8	3	0.8%	352	388	6	0	0.0%
		第三類(言語文化教育系)	336	361	10	1	0.3%	336	367	9	2	0.5%	336	367	11	3	0.8%	336	368	13	2	0.5%	336	363	13	0	0.0%
		第四類(生涯活動教育系)	352	408	11	3	0.7%	352	403	9	4	1.0%	352	394	6	2	0.5%	352	392	6	3	0.8%	352	386	4	0	0.0%
		第五類(人間形成基礎系)	220	251	9	2	0.8%	220	244	7	1	0.4%	220	245	6	0	0.0%	220	241	5	1	0.4%	220	244	7	0	0.0%
合計			1,980	2,171	61	9	0.4%	1,980	2,164	51	12	0.6%	1,980	2,153	36	10	0.5%	1,980	2,157	43	17	0.8%	1,980	2,147	40	0	0.0%

博士課程前期			平成21年度					平成22年度					平成23年度					平成24年度					平成25年度				
研究科	分野	専攻	収容定員	在学者数	留年者数	退学者数	退学率	収容定員	在学者数	留年者数	退学者数	退学率	収容定員	在学者数	留年者数	退学者数	退学率	収容定員	在学者数	留年者数	退学者数	退学率	収容定員	在学者数	留年者数	退学者数	退学率
教育学研究科	社会	学習科学専攻	38	48	4	1	2.1%	38	52	1	0	0.0%	38	52	2	0	0.0%	38	45	1	1	2.2%	38	48	0	0	0.0%
		特別支援教育学専攻	10	8	0	0	0.0%	10	8	0	0	0.0%	10	10	1	0	0.0%	10	12	2	1	8.3%	10	9	2	0	0.0%
		科学文化教育学専攻	70	85	2	2	2.4%	70	83	1	4	4.8%	70	80	1	0	0.0%	70	83	0	0	0.0%	70	82	2	0	0.0%
		言語文化教育学専攻	68	80	5	0	0.0%	68	86	4	0	0.0%	68	87	3	0	0.0%	68	81	2	0	0.0%	68	71	0	0	0.0%
		生涯活動教育学専攻	50	70	2	1	1.4%	50	68	1	0	0.0%	50	69	2	2	2.9%	50	61	2	0	0.0%	50	57	1	0	0.0%
		教育学専攻	30	39	2	1	2.6%	30	37	2	2	5.4%	30	36	1	1	2.8%	30	38	0	2	5.3%	30	41	1	0	0.0%
		心理学専攻	38	41	1	1	2.4%	38	44	1	1	2.3%	38	44	0	1	2.3%	38	44	0	1	2.3%	38	44	0	0	0.0%
		高等教育開発専攻	10	8	0	0	0.0%	10	10	0	0	0.0%	10	7	0	0	0.0%	10	9	0	0	0.0%	10	10	1	0	0.0%
合計			314	379	16	6	1.6%	314	388	10	7	1.8%	314	385	10	4	1.0%	314	373	7	5	1.3%	314	362	7	0	0.0%

博士課程後期			平成21年度					平成22年度					平成23年度					平成24年度					平成25年度				
研究科	分野	専攻	収容定員	在学者数	留年者数	退学者数	退学率	収容定員	在学者数	留年者数	退学者数	退学率	収容定員	在学者数	留年者数	退学者数	退学率	収容定員	在学者数	留年者数	退学者数	退学率	収容定員	在学者数	留年者数	退学者数	退学率
教育学研究科	社会	学習開発専攻	27	47	8	0	0.0%	27	50	18	2	4.0%	27	42	10	0	0.0%	27	44	19	0	0.0%	27	44	17	0	0.0%
		文化教育開発専攻	66	107	23	4	3.7%	66	102	28	4	3.9%	66	96	22	1	1.0%	66	104	23	1	1.0%	66	116	30	0	0.0%
		教育人間科学専攻	54	82	18	2	2.4%	54	75	18	5	6.7%	54	79	14	6	7.6%	54	68	17	2	2.9%	54	75	21	0	0.0%
合計			147	236	49	6	2.5%	147	227	64	11	4.8%	147	217	46	7	3.2%	147	216	59	3	1.4%	147	235	68	0	0.0%

注1. 留年者数は当該年度に進級・卒業できなかった人数を記載してください(在学者のうち、所定の修業年限を超えて在学している者の数)

注2. 退学者数は当該年度に退学した人数を記載してください(除籍者も含めます)。

在学の状況(2)

(広島大学)

学士課程			平成21年度					平成22年度					平成23年度					平成24年度					平成25年度				
学部	分野	専攻	収容定員	在学者数	うち留学生数	うち社会人学生数	定員充足率	収容定員	在学者数	うち留学生数	うち社会人学生数	定員充足率	収容定員	在学者数	うち留学生数	うち社会人学生数	定員充足率	収容定員	在学者数	うち留学生数	うち社会人学生数	定員充足率	収容定員	在学者数	うち留学生数	うち社会人学生数	定員充足率
教育学部	社会	第一類(学校教育系)	720	745	0	0	103.5%	720	759	0	0	105.4%	720	756	0	0	105.0%	720	763	0	0	106.0%	720	766	0	0	106.4%
		第二類(科学文化教育系)	352	406	0	0	115.3%	352	391	0	0	111.1%	352	391	0	0	111.1%	352	393	0	0	111.6%	352	388	0	0	110.2%
		第三類(言語文化教育系)	336	361	0	0	107.4%	336	367	0	1	109.2%	336	367	0	1	109.2%	336	368	0	1	109.5%	336	363	0	2	108.0%
		第四類(生涯活動教育系)	352	408	0	0	115.9%	352	403	0	0	114.5%	352	394	0	0	111.9%	352	392	0	0	111.4%	352	386	0	0	109.7%
		第五類(人間形成基礎系)	220	251	0	0	114.1%	220	244	0	0	110.9%	220	245	0	0	111.4%	220	241	0	0	109.5%	220	244	1	0	110.9%
合計			1,980	2,171	0	0	109.6%	1,980	2,164	0	1	109.3%	1,980	2,153	0	1	108.7%	1,980	2,157	0	1	108.9%	1,980	2,147	1	2	108.4%

博士課程前期			平成21年度					平成22年度					平成23年度					平成24年度					平成25年度				
研究科	分野	専攻	収容定員	在学者数	うち留学生数	うち社会人学生数	定員充足率	収容定員	在学者数	うち留学生数	うち社会人学生数	定員充足率	収容定員	在学者数	うち留学生数	うち社会人学生数	定員充足率	収容定員	在学者数	うち留学生数	うち社会人学生数	定員充足率	収容定員	在学者数	うち留学生数	うち社会人学生数	定員充足率
教育学研究科	社会	学習科学専攻	38	48	4	8	126.3%	38	52	5	11	136.8%	38	52	5	12	136.8%	38	45	6	10	118.4%	38	48	6	9	126.3%
		特別支援教育学専攻	10	8	0	5	80.0%	10	8	1	4	80.0%	10	10	1	3	100.0%	10	12	1	2	120.0%	10	9	1	2	90.0%
		科学文化教育学専攻	70	85	2	4	121.4%	70	83	5	5	118.6%	70	80	7	13	114.3%	70	83	5	14	118.6%	70	82	4	11	117.1%
		言語文化教育学専攻	68	80	20	4	117.6%	68	86	24	15	126.5%	68	87	26	18	127.9%	68	81	21	18	119.1%	68	71	17	18	104.4%
		生涯活動教育学専攻	50	70	6	13	140.0%	50	68	9	13	136.0%	50	69	7	10	138.0%	50	61	5	10	122.0%	50	57	5	13	114.0%
		教育学専攻	30	39	9	6	130.0%	30	37	5	12	123.3%	30	36	8	9	120.0%	30	38	9	7	126.7%	30	41	7	11	136.7%
		心理学専攻	38	41	1	1	107.9%	38	44	2	3	115.8%	38	44	1	7	115.8%	38	44	0	7	115.8%	38	44	2	3	115.8%
		高等教育開発専攻	10	8	1	4	80.0%	10	10	2	2	100.0%	10	7	2	2	70.0%	10	9	2	3	90.0%	10	10	1	4	100.0%
合計			314	379	43	45	120.7%	314	388	53	65	123.6%	314	385	57	74	122.6%	314	373	49	71	118.8%	314	362	43	71	115.3%

博士課程後期			平成21年度					平成22年度					平成23年度					平成24年度					平成25年度				
研究科	分野	専攻	収容定員	在学者数	うち留学生数	うち社会人学生数	定員充足率	収容定員	在学者数	うち留学生数	うち社会人学生数	定員充足率	収容定員	在学者数	うち留学生数	うち社会人学生数	定員充足率	収容定員	在学者数	うち留学生数	うち社会人学生数	定員充足率	収容定員	在学者数	うち留学生数	うち社会人学生数	定員充足率
教育学研究科	社会	学習開発専攻	27	47	4	23	174.1%	27	50	5	34	185.2%	27	42	3	29	155.6%	27	44	3	34	163.0%	27	44	2	32	163.0%
		文化教育開発専攻	66	107	29	31	162.1%	66	102	21	33	154.5%	66	96	19	41	145.5%	66	104	18	46	157.6%	66	116	19	55	175.8%
		教育人間科学専攻	54	82	10	18	151.9%	54	75	11	20	138.9%	54	79	12	25	146.3%	54	68	12	19	125.9%	54	75	15	28	138.9%
合計			147	236	43	72	160.5%	147	227	37	87	154.4%	147	217	34	95	147.6%	147	216	33	99	146.9%	147	235	36	115	159.9%

※「社会人学生数」とは、当該年度の5月1日現在で、①職に就いている者(給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を得る仕事に現に就いている者)、②給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を得る仕事から既に退職した者、③主婦、主夫の数をさす。

※「留学生」とは、「日本の大学に留学する目的を持って入国した外国人学生」をさす。

進路の状況(1)

(広島大学)

学部	学課程	平成20年度										平成21年度										平成22年度										平成23年度										平成24年度									
		卒業	進学	専修・外国	就職	不詳・死亡	その他	その他	卒業	進学	専修・外国	就職	不詳・死亡	その他	その他	卒業	進学	専修・外国	就職	不詳・死亡	その他	その他	卒業	進学	専修・外国	就職	不詳・死亡	その他	その他	卒業	進学	専修・外国	就職	不詳・死亡	その他	その他															
教育学部	社会	第一類(学校教育系)	179	15	0	134	25	0	5	2.8%	181	20	1	144	15	0	1	0.6%	187	21	6	132	27	0	1	0.5%	179	20	2	144	12	0	1	0.6%	177	24	0	133	15	0	5	2.8%									
		第二类(科学文化教育系)	99	33	2	53	9	0	2	2.0%	106	31	3	64	8	0	0	0.0%	96	29	2	56	9	0	0	0.0%	94	29	0	52	10	0	3	3.2%	97	31	0	52	14	0	0	0.0%									
		第三類(言語文化教育系)	94	24	1	56	10	0	3	3.2%	81	18	0	49	13	0	1	1.2%	85	19	0	54	12	0	0	0.0%	84	17	1	62	2	0	2	2.4%	91	20	2	57	12	0	0	0.0%									
		第四類(生涯活動教育系)	93	20	0	64	2	1	6	6.5%	100	28	3	55	11	0	3	3.0%	99	29	2	60	5	0	3	3.0%	96	26	1	57	9	0	3	3.1%	96	14	0	67	11	0	4	4.2%									
		第五類(人間形成基礎系)	60	16	1	38	5	0	0	0.0%	62	21	4	27	7	0	3	4.8%	58	20	0	32	6	0	0	0.0%	62	22	1	32	7	0	0	0.0%	54	20	1	26	3	0	4	7.4%									
		合計	525	108	4	345	51	1	16	3.0%	530	118	11	339	54	0	8	1.5%	525	118	10	334	59	0	4	0.8%	515	114	5	347	40	0	9	1.7%	515	109	3	335	55	0	13	2.5%									

研究科	分野	専攻	平成20年度										平成21年度										平成22年度										平成23年度										平成24年度									
			修了	進学	専修・外国	就職	不詳・死亡	その他	その他	修了	進学	専修・外国	就職	不詳・死亡	その他	その他	修了	進学	専修・外国	就職	不詳・死亡	その他	その他	修了	進学	専修・外国	就職	不詳・死亡	その他	その他	修了	進学	専修・外国	就職	不詳・死亡	その他	その他															
教育学研究科	社会	学習科学専攻	25	3	0	20	1	0	1	4.0%	23	1	0	22	0	0	0	0.0%	22	1	0	14	7	0	0	0.0%	28	4	1	18	2	0	3	10.7%	22	0	0	20	2	0	0	0.0%										
		特別支援教育学専攻	3	1	0	2	0	0	0	0.0%	3	1	0	2	0	0	0	0.0%	4	0	0	4	0	0	0	0.0%	2	0	0	2	0	0	0	0.0%	6	1	0	4	1	0	0	0.0%										
		科学文化教育専攻	39	2	1	34	2	0	0	0.0%	40	4	0	31	4	0	1	2.5%	41	4	0	26	11	0	0	0.0%	37	3	0	29	5	0	0	0.0%	40	5	0	34	1	0	0	0.0%										
		言語文化教育専攻	37	7	1	22	7	0	0	0.0%	33	7	0	21	3	0	2	6.1%	38	7	1	24	3	0	3	7.9%	42	8	0	26	3	0	5	11.9%	43	7	0	26	6	0	4	9.3%										
		生涯活動教育学専攻	22	1	0	18	3	0	0	0.0%	35	5	1	19	6	0	4	11.4%	30	1	1	21	5	0	2	6.7%	35	4	2	19	5	0	5	14.3%	30	2	0	21	5	0	2	6.7%										
		教育学専攻	15	5	0	3	2	2	3	20.0%	17	5	1	6	5	0	0	0.0%	15	3	0	8	3	0	1	6.7%	17	3	0	11	1	0	2	11.8%	13	2	0	6	5	0	0	0.0%										
		心理学専攻	20	11	1	7	1	0	0	0.0%	16	5	0	9	2	0	0	0.0%	23	2	0	16	4	0	1	4.3%	20	8	0	10	2	0	0	0.0%	23	7	0	13	3	0	0	0.0%										
		高等教育開発専攻	2	1	0	1	0	0	0	0.0%	3	0	0	2	0	0	1	33.3%	5	2	0	1	2	0	0	0.0%	3	1	0	1	1	0	0	0.0%	2	1	0	0	0	0	1	50.0%										
合計	163	31	3	107	16	2	4	2.5%	170	28	2	112	20	0	8	4.7%	178	20	2	114	35	0	7	3.9%	184	31	3	116	19	0	15	8.2%	179	25	0	124	23	0	7	3.9%												

研究科	分野	専攻	平成20年度										平成21年度										平成22年度										平成23年度										平成24年度									
			修了	進学	専修・外国	就職	不詳・死亡	その他	その他	修了	進学	専修・外国	就職	不詳・死亡	その他	その他	修了	進学	専修・外国	就職	不詳・死亡	その他	その他	修了	進学	専修・外国	就職	不詳・死亡	その他	その他	修了	進学	専修・外国	就職	不詳・死亡	その他	その他															
教育学研究科	社会	学習開発専攻	8	0	1	6	1	0	0	0.0%	6	0	1	4	0	0	1	16.7%	12	0	2	9	0	0	1	8.3%	8	0	0	7	1	0	0	0.0%	9	0	0	7	0	0	2	22.2%										
		文化教育開発専攻	22	0	1	19	1	0	1	4.5%	28	0	1	17	4	0	6	21.4%	23	0	1	19	2	0	1	4.3%	19	0	0	17	2	0	0	0.0%	20	0	0	18	0	0	2	10.0%										
		教育人間科学専攻	16	0	1	12	3	0	0	0.0%	21	0	0	19	0	0	2	9.5%	11	0	0	9	1	0	1	9.1%	19	0	0	18	0	0	1	5.3%	14	0	0	10	1	0	3	21.4%										
合計	46	0	3	37	5	0	1	2.2%	55	0	2	40	4	0	9	16.4%	46	0	3	37	3	0	3	6.5%	46	0	0	42	3	0	1	2.2%	43	0	0	35	1	0	7	16.3%												

※「卒業数」は、大学院研究科、大学学部、短期大学本科、専攻科、別科を含みます。
 ※「専修・外国」とは、注1以外のもので、学校その他教育施設に入学(在籍)している者を指します(例えば、専修学校、各種学校、外国の学校及び職業能力開発校への入学者、研究生として入学した者が含まれる。)
 ※「就職者数」には、「正規の職員・従業員・自営業主・正規の職員でない者・臨床研修医・一時的な仕事に就いた者」が含まれる。

進路の状況(2)

※平成25年7月24日現在の状況

(広島大学)

学士課程			平成20年度					平成21年度					平成22年度					平成23年度					平成24年度									
学部	分野	学科・課程	就職地域					就職地域					就職地域					就職地域					就職地域									
			就職者数	県内	中国・四国地域	その他	県内率	地域率	就職者数	県内	中国・四国地域	その他	県内率	地域率	就職者数	県内	中国・四国地域	その他	県内率	地域率	就職者数	県内	中国・四国地域	その他	県内率	地域率	就職者数	県内	中国・四国地域	その他	県内率	地域率
教育学部	社会	第一類(学校教育系)	129	30	51	78	23.3%	39.5%	130	38	67	63	29.2%	51.5%	128	48	72	56	37.5%	56.3%	136	37	78	58	27.2%	57.4%	125	40	61	64	32.0%	48.8%
		第二類(科学文化教育系)	48	12	21	27	25.0%	43.8%	54	13	28	26	24.1%	51.9%	49	14	24	25	28.6%	49.0%	45	14	23	22	31.1%	51.1%	46	18	26	20	39.1%	56.5%
		第三類(言語文化教育系)	54	11	21	33	20.4%	38.9%	45	12	24	21	26.7%	53.3%	52	14	19	33	26.9%	36.5%	58	14	28	30	24.1%	48.3%	56	11	27	29	19.6%	48.2%
		第四類(生涯活動教育系)	59	19	34	25	32.2%	57.6%	49	11	23	26	22.4%	46.9%	54	22	34	20	40.7%	63.0%	51	14	27	24	27.5%	52.9%	55	16	27	28	29.1%	49.1%
		第五類(人間形成基礎系)	35	8	15	20	22.9%	42.9%	27	10	14	13	37.0%	51.9%	32	9	16	16	28.1%	50.0%	32	12	17	15	37.5%	53.1%	26	6	16	10	23.1%	61.5%
合計			325	80	142	183	24.6%	43.7%	305	84	156	149	27.5%	51.1%	315	107	165	150	34.0%	52.4%	322	91	173	149	28.3%	53.7%	308	91	157	151	29.5%	51.0%

博士課程前期			平成20年度					平成21年度					平成22年度					平成23年度					平成24年度									
研究科	分野	専攻	就職地域					就職地域					就職地域					就職地域					就職地域									
			就職者数	県内	中国・四国地域	その他	県内率	地域率	就職者数	県内	中国・四国地域	その他	県内率	地域率	就職者数	県内	中国・四国地域	その他	県内率	地域率	就職者数	県内	中国・四国地域	その他	県内率	地域率	就職者数	県内	中国・四国地域	その他	県内率	地域率
教育学研究科	社会	学習科学専攻	15	11	12	3	73.3%	80.0%	16	8	10	6	50.0%	62.5%	7	2	3	4	28.6%	42.9%	14	9	13	1	64.3%	92.9%	17	11	12	5	64.7%	70.6%
		特別支援教育学専攻	0	0	0	0	0.0%	0.0%	1	1	1	0	100.0%	100.0%	1	0	0	1	0.0%	0.0%	0	0	0	0	0.0%	0.0%	4	1	1	3	25.0%	25.0%
		科学文化教育専攻	28	8	14	14	28.6%	50.0%	18	10	12	6	55.6%	66.7%	18	8	11	7	44.4%	61.1%	21	10	15	6	47.6%	71.4%	34	12	15	19	35.3%	44.1%
		言語文化教育専攻	14	5	7	7	35.7%	50.0%	9	2	4	5	22.2%	44.4%	16	4	7	9	25.0%	43.8%	15	3	9	6	20.0%	60.0%	22	6	11	11	27.3%	50.0%
		生涯活動教育学専攻	15	7	10	5	46.7%	66.7%	11	6	7	4	54.5%	63.6%	12	9	9	3	75.0%	75.0%	11	9	10	1	81.8%	90.9%	19	13	14	5	68.4%	73.7%
		教育学専攻	2	1	1	1	50.0%	50.0%	4	2	3	1	50.0%	75.0%	2	1	1	1	50.0%	50.0%	5	1	3	2	20.0%	60.0%	4	3	3	1	75.0%	75.0%
		心理学専攻	6	2	3	3	33.3%	50.0%	8	7	8	0	87.5%	100.0%	15	2	7	8	13.3%	46.7%	7	3	4	3	42.9%	57.1%	13	3	7	6	23.1%	53.8%
		高等教育開発専攻	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0	0	0	0	0.0%	0.0%	1	1	1	0	100.0%	100.0%	0	0	0	0	0.0%	0.0%
合計			80	34	47	33	42.5%	58.8%	67	36	45	22	53.7%	67.2%	71	26	38	33	36.6%	53.5%	74	36	55	19	48.6%	74.3%	113	49	63	50	43.4%	55.8%

博士課程後期			平成20年度					平成21年度					平成22年度					平成23年度					平成24年度									
研究科	分野	専攻	就職地域					就職地域					就職地域					就職地域					就職地域									
			就職者数	県内	中国・四国地域	その他	県内率	地域率	就職者数	県内	中国・四国地域	その他	県内率	地域率	就職者数	県内	中国・四国地域	その他	県内率	地域率	就職者数	県内	中国・四国地域	その他	県内率	地域率	就職者数	県内	中国・四国地域	その他	県内率	地域率
教育学研究科	社会	学習開発専攻	1	0	0	1	0.0%	0.0%	3	1	1	2	33.3%	33.3%	3	1	2	1	33.3%	66.7%	5	1	2	3	20.0%	40.0%	7	4	4	3	57.1%	57.1%
		文化教育開発専攻	8	6	7	1	75.0%	87.5%	8	3	5	3	37.5%	62.5%	9	4	5	4	44.4%	55.6%	8	2	3	5	25.0%	37.5%	15	8	11	4	53.3%	73.3%
		教育人間科学専攻	6	3	3	3	50.0%	50.0%	12	5	6	6	41.7%	50.0%	9	6	7	2	66.7%	77.8%	12	8	8	4	66.7%	66.7%	9	4	4	5	44.4%	44.4%
合計			15	9	10	5	60.0%	66.7%	23	9	12	11	39.1%	52.2%	21	11	14	7	52.4%	66.7%	25	11	13	12	44.0%	52.0%	31	16	19	12	51.6%	61.3%

注1:就職地域の欄で「県内」とは、就職先の企業が主に大学の所在する都道府県で経済活動を行うもの(本店・本社が存在するなど)に就職した者等、主な勤務地が当該都道府県である者の数を指します。

注2:就職地域の欄で、「○○地域」とは当該大学が所在する地域のブロック(例:東北地域)を記載願います(定義は注1と同様です)。

なお、参考までに工学分野のミッション再定義の際に分類したものを添付いたします(この分類に限るものではありません)。

注3:「県内」の数は「○○地域」の内数です。

学部単位の入学者(出身県別)状況【過去2年】

(広島大学 教育学部)

	入学者(平成24年)	割合	入学者(平成25年)	割合
北海道		0.0%		0.0%
青森県		0.0%	1	0.2%
岩手県		0.0%		0.0%
宮城県		0.0%		0.0%
秋田県		0.0%		0.0%
山形県		0.0%		0.0%
福島県		0.0%		0.0%
茨城県		0.0%		0.0%
栃木県		0.0%	1	0.2%
群馬県		0.0%		0.0%
埼玉県	1	0.2%	2	0.4%
千葉県		0.0%		0.0%
東京都	1	0.2%		0.0%
神奈川県	1	0.2%	1	0.2%
新潟県		0.0%		0.0%
富山県	1	0.2%	1	0.2%
石川県		0.0%	2	0.4%
福井県	7	1.3%	8	1.5%
山梨県	1	0.2%		0.0%
長野県		0.0%		0.0%
岐阜県	4	0.8%	5	1.0%
静岡県	6	1.1%	2	0.4%
愛知県	8	1.5%	8	1.5%
三重県	5	1.0%	2	0.4%
滋賀県	9	1.7%	4	0.8%
京都府	7	1.3%	5	1.0%
大阪府	11	2.1%	7	1.3%
兵庫県	30	5.7%	29	5.5%
奈良県	1	0.2%	1	0.2%
和歌山県	11	2.1%	7	1.3%
鳥取県	8	1.5%	5	1.0%
島根県	23	4.4%	23	4.4%
岡山県	28	5.3%	21	4.0%
広島県	130	24.7%	141	26.9%
山口県	23	4.4%	24	4.6%
徳島県	10	1.9%	13	2.5%
香川県	32	6.1%	39	7.4%
愛媛県	25	4.8%	26	5.0%
高知県	3	0.6%	2	0.4%
福岡県	37	7.0%	36	6.9%
佐賀県	10	1.9%	13	2.5%
長崎県	22	4.2%	21	4.0%
熊本県	20	3.8%	22	4.2%
大分県	18	3.4%	20	3.8%
宮崎県	13	2.5%	8	1.5%
鹿児島県	15	2.9%	22	4.2%
沖縄県	2	0.4%	1	0.2%
その他	3	0.6%	1	0.2%
全体	526		524	

※「その他」は、外国の学校卒・専修学校高等課程卒・その他(高卒認定等)の合計である。

進路の状況(3)【平成23年度】

(広島大学)

学士課程			平成23年度													産業別就職者数																														
			職業別就職者数													A・B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S													
			B 専門的・技術的職業従事者																																											
学部	分野	学科・課程	研究者	農林水産技術者	製造技術者	建築・土木測量技術者	情報処理・通信技術者	その他の技術者	教員	医師・歯科医師・薬剤師・獣医師	その他医療職	美術・写真・デザイン・音楽・舞台	その他	A	C	D	E	F	G	H	I	J	K		農林漁業	採石業等	鉱業・建設業	製造業	電気・ガス・水道業	情報通信業	運輸・郵便業	小売・卸売	金融・保険	物品賃貸	不動産	学術研究等	飲食・宿泊	サービス	学習支援	教育	医療・福祉	複合サービス	その他のサービス業	公務	その他	
														教育学部	社会	第一類(学校教育系)					1		124						9		1	1										2	1		3	
第二類(科学文化教育系)			1		1		34				2		5			1		1											2		1	1							37				1	3		
第三類(言語文化教育系)							35				2		21																1	2	1	6	5	1					38	1			1	2		
第四類(生涯活動教育系)					1		13			1	2		22			7	5											2	2	1	1	12	6			3		1	16	1			1	5		
第五類(人間形成基礎系)					1		4			1	1		22				2	1										1	1	2	1	4	2					9	1	1	1	1	9			

博士課程前期			平成23年度													産業別就職者数																													
			職業別就職者数													A・B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S												
			B 専門的・技術的職業従事者																																										
研究科	分野	専攻	研究者	農林水産技術者	製造技術者	建築・土木測量技術者	情報処理・通信技術者	その他の技術者	教員	医師・歯科医師・薬剤師・獣医師	その他医療職	美術・写真・デザイン・音楽・舞台	その他	A	C	D	E	F	G	H	I	J	K		農林漁業	採石業等	鉱業・建設業	製造業	電気・ガス・水道業	情報通信業	運輸・郵便業	小売・卸売	金融・保険	物品賃貸	不動産	学術研究等	飲食・宿泊	サービス	学習支援	教育	医療・福祉	複合サービス	その他のサービス業	公務	その他
														教育学研究科	社会	学習科学専攻							16						1													1			
特別支援教育学専攻							2																																						
科学文化教育学専攻					1		22						2																																
言語文化教育学専攻							18				2		1																		1														
生涯活動教育学専攻							11						3					1											1								1	11							
教育学専攻							8						2																																
心理学専攻						1					4		2				1																								3	1	1	2	1
高等教育開発専攻										1																																			

博士課程後期			平成23年度													産業別就職者数																														
			職業別就職者数													A・B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S													
			B 専門的・技術的職業従事者																																											
研究科	分野	専攻	研究者	農林水産技術者	製造技術者	建築・土木測量技術者	情報処理・通信技術者	その他の技術者	教員	医師・歯科医師・薬剤師・獣医師	その他医療職	美術・写真・デザイン・音楽・舞台	その他	A	C	D	E	F	G	H	I	J	K		農林漁業	採石業等	鉱業・建設業	製造業	電気・ガス・水道業	情報通信業	運輸・郵便業	小売・卸売	金融・保険	物品賃貸	不動産	学術研究等	飲食・宿泊	サービス	学習支援	教育	医療・福祉	複合サービス	その他のサービス業	公務	その他	
														教育学研究科	社会	学習開発専攻							7																							
文化教育開発専攻							11						1			1																														
教育人間科学専攻	1						13				2																																			

○「職業別就職者数」のA~Kは、以下のURLの「日本標準職業分類」に対応している。

http://www.stat.go.jp/index/seido/shokgyou/kou_h21.htm

○「産業別就職者数」のA~Sは、以下のURLの「日本標準産業分類」に対応している。

<http://www.stat.go.jp/index/seido/sangyo/19-3.htm>

進路の状況(3)【平成24年度】

(広島大学)

学士課程			平成24年度														職業別就職者数																	産業別就職者数																
			B専門的・技術的職業従事者														A 管理的職業 従事者	C 事務従事者	D 販売従事者	E 職業従事者 サービス	F 保安職業従事 者	G 農林漁業 従事者	H 生産工程 従事者	I 運送・機械 運転従事者	J 建設・採掘 従事者	K 運輸・清掃 等従事者	その他	A・B 農林漁業	C 採石業・ 鋳業・ 建設業	D 製造業	E 電気・ガス ・水道業	F 情報通信業	G 運輸・郵便業	H 小売・卸売	I 金融・保険	J 不動産・ 物品買・ 学術研究等	K 飲食・宿泊	L サービス	M 学術支援 教育・ 生活関連	N サービス	O 医療・福祉	P 複合サービス	Q その他のサービ ス業	R 公務	S その他					
			研究者	農林水産 技術者	製造 技術者	建築・ 土木・ 測量 技術者	情報 処理・ 通信 技術者	その他 の技術 者	教員	医師・歯 科医師・ 薬剤師・ 獣医師	その他 医療職	美術・写 真・デザ イナー・ 音楽・舞 台	その他																																					
教育学部	社会	第一類(学校教育系)			1			116						2		5	1											1			118						1													
		第二類(科学文化教育系)			1			32									10		1													34					3													
		第三類(言語文化教育系)						28							5		19		3													34		1	2	34		2												
		第四類(生涯活動教育系)						14						2	3		28	5	2	1												11	7		1	17	2	2	4											
		第五類(人間形成基礎系)							1	1							22	1		1												3	1	2	2	2		12												

博士課程前期			平成24年度														職業別就職者数																	産業別就職者数																
			B専門的・技術的職業従事者														A 管理的職業 従事者	C 事務従事者	D 販売従事者	E 職業従事者 サービス	F 保安職業従事 者	G 農林漁業 従事者	H 生産工程 従事者	I 運送・機械 運転従事者	J 建設・採掘 従事者	K 運輸・清掃 等従事者	その他	A・B 農林漁業	C 採石業・ 鋳業・ 建設業	D 製造業	E 電気・ガス ・水道業	F 情報通信業	G 運輸・郵便業	H 小売・卸売	I 金融・保険	J 不動産・ 物品買・ 学術研究等	K 飲食・宿泊	L サービス	M 学術支援 教育・ 生活関連	N サービス	O 医療・福祉	P 複合サービス	Q その他のサービ ス業	R 公務	S その他					
			研究者	農林水産 技術者	製造 技術者	建築・ 土木・ 測量 技術者	情報 処理・ 通信 技術者	その他 の技術 者	教員	医師・歯 科医師・ 薬剤師・ 獣医師	その他 医療職	美術・写 真・デザ イナー・ 音楽・舞 台	その他																																					
教育学研究科	社会	学習科学専攻						15										2														15		1																
		特別支援教育学専攻						4																										4																
		科学文化教育学専攻			2			28									4																28					4												
		言語文化教育学専攻						17					1				4								1								17					3												
		生涯活動教育学専攻						17									2															17					2													
		教育学専攻						2									2																	2				1												
		心理学専攻					2					5		2			4											3					1	6				3												
高等教育開発専攻																																																		

博士課程後期			平成24年度														職業別就職者数																	産業別就職者数																
			B:専門的・技術的職業従事者														A 管理的職業 従事者	C 事務従事者	D 販売従事者	E 職業従事者 サービス	F 保安職業従事 者	G 農林漁業 従事者	H 生産工程 従事者	I 運送・機械 運転従事者	J 建設・採掘 従事者	K 運輸・清掃 等従事者	その他	A・B 農林漁業	C 採石業・ 鋳業・ 建設業	D 製造業	E 電気・ガス ・水道業	F 情報通信業	G 運輸・郵便業	H 小売・卸売	I 金融・保険	J 不動産・ 物品買・ 学術研究等	K 飲食・宿泊	L サービス	M 学術支援 教育・ 生活関連	N サービス	O 医療・福祉	P 複合サービス	Q その他のサービ ス業	R 公務	S その他					
			研究者	農林水産 技術者	製造 技術者	建築・ 土木・ 測量 技術者	情報 処理・ 通信 技術者	その他 の技術 者	教員	医師・歯 科医師・ 薬剤師・ 獣医師	その他 医療職	美術・写 真・デザ イナー・ 音楽・舞 台	その他																																					
教育学研究科	社会	学習開発専攻						7																																										
		文化教育開発専攻	1					14																											15															
		教育人間科学専攻	2					5				1					1																		7	1		1												

○「職業別就職者数」のA~Kは、以下のURLの「日本標準職業分類」に対応している。

http://www.stat.go.jp/index/seido/shokgyou/kou_h21.htm

○「産業別就職者数」のA~Sは、以下のURLの「日本標準産業分類」に対応している。

<http://www.stat.go.jp/index/seido/sangyo/19-3.htm>